

**第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
令和2年度  
進行管理検証報告書**

**令和3年10月  
生駒市**

## 目次

1 第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況評価について	1
(1)第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	1
(2)第2期総合戦略策定にあたっての経緯と今後の進行管理について	2
(3)各取組項目の評価方法について	3
2 令和2年度取組状況検証結果 総括	4
(1)評価結果の総括	4
(2)地方創生推進交付金KPI一覧	6
令和2年度施策の進捗状況検証結果 個票	7
基本目標1 子育てしやすいまち	8
1-1-1 出産に対する経済的支援	10
1-1-2 産前産後ケアの充実	12
1-2-1 就学前保育の機能強化	14
1-2-2 学童保育の機能強化	18
1-3-1 教育環境の充実	20
1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進	24
1-4-2 子育て世帯の交流促進	26
1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化	28
1-5-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上	30
基本目標2 働き盛り世代が希望の仕事のできるまち	34
2-1-1 働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現	36
2-2-1 産業の活性化	40
2-2-2 起業支援	42
2-3-1 子育て分野における就労の促進	44
2-3-2 介護分野における就労の促進	46
2-3-3 食に関する地域産業の創出	48
基本目標3 働き盛り世代が住みたいまち	50
3-1-1 まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大	52
3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進	54
3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成	56
3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出	60
3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成	62
附属資料	64
1 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議要綱	65
2 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 参加者名簿	66
3 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価集約表	67

# 1 第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況評価について

## (1) 第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」という。）は、国が定めた「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」及び「生駒市人口ビジョン（改訂版）」を勘案し定めたもので、第6次総合計画を特出し・深掘りした計画となっている。

第2期総合戦略では、働き盛り世代をターゲットとし、下図に示すように、3つの「基本目標」に示す将来像を展望して、「施策に対する基本的方向」（10項目）を定め、取組の内容として「具体的な施策」（20項目）を掲げている。

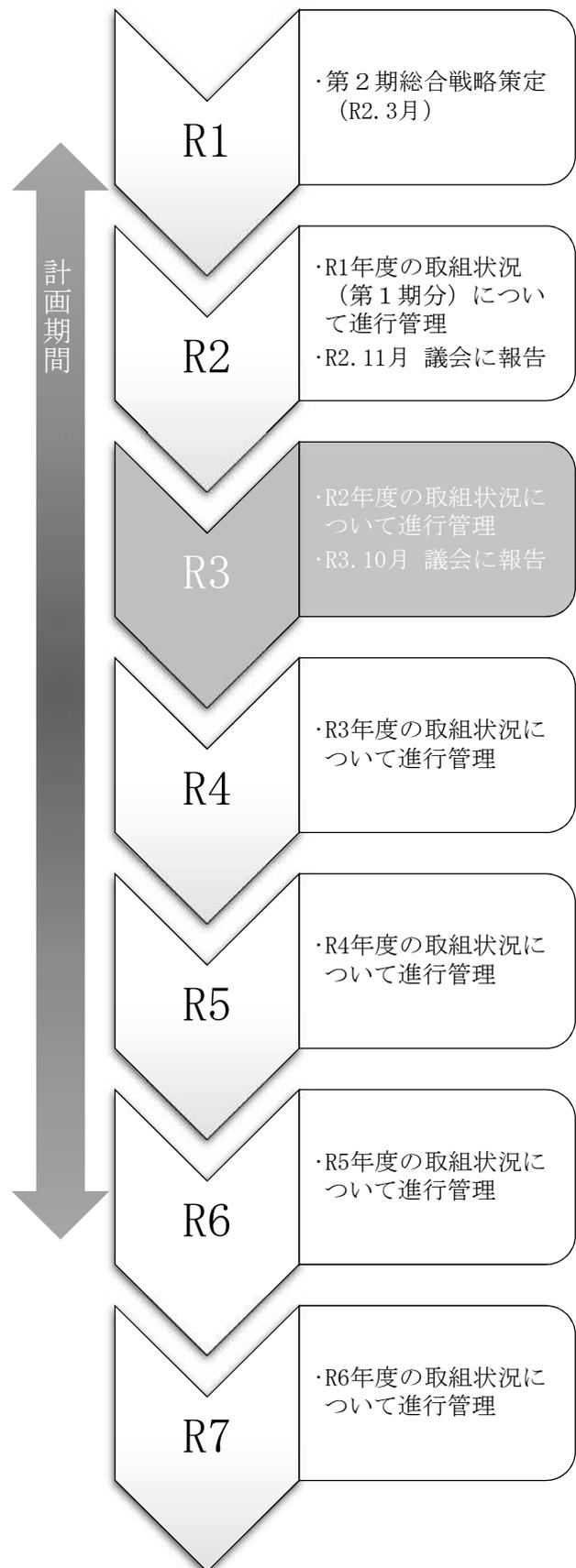
基本目標	施策に対する基本的方向	具体的な施策
1 子育てしやすいまち	1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する	1-1-1 出産に対する経済的支援 1-1-2 産前産後ケアの充実
	1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる	1-2-1 就学前保育の機能強化 1-2-2 学童保育の機能強化
	1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う	1-3-1 教育環境の充実
	1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる	1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進 1-4-2 子育て世帯の交流促進 1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化
	1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる	1-5-1 災害・犯罪等に対する安全性の向上
2 働き盛り世代が希望の仕事をできるまち	2-1 職場での多様な働き方を広げる	2-1-1 働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現
	2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる	2-2-1 産業の活性化 2-2-2 起業支援
	2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる	2-3-1 子育て分野における就労の促進 2-3-2 介護・福祉分野における就労の促進 2-3-3 食に関する地域産業の創出
3 働き盛り世代が住みたいまち	3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる	3-1-1 まちの魅力発信や交流の促進による交流人口の拡大 3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進
	3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる	3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成 3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出 3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成

## (2) 第2期総合戦略策定にあたっての経緯と今後の進行管理について

第2期総合戦略の計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間である。

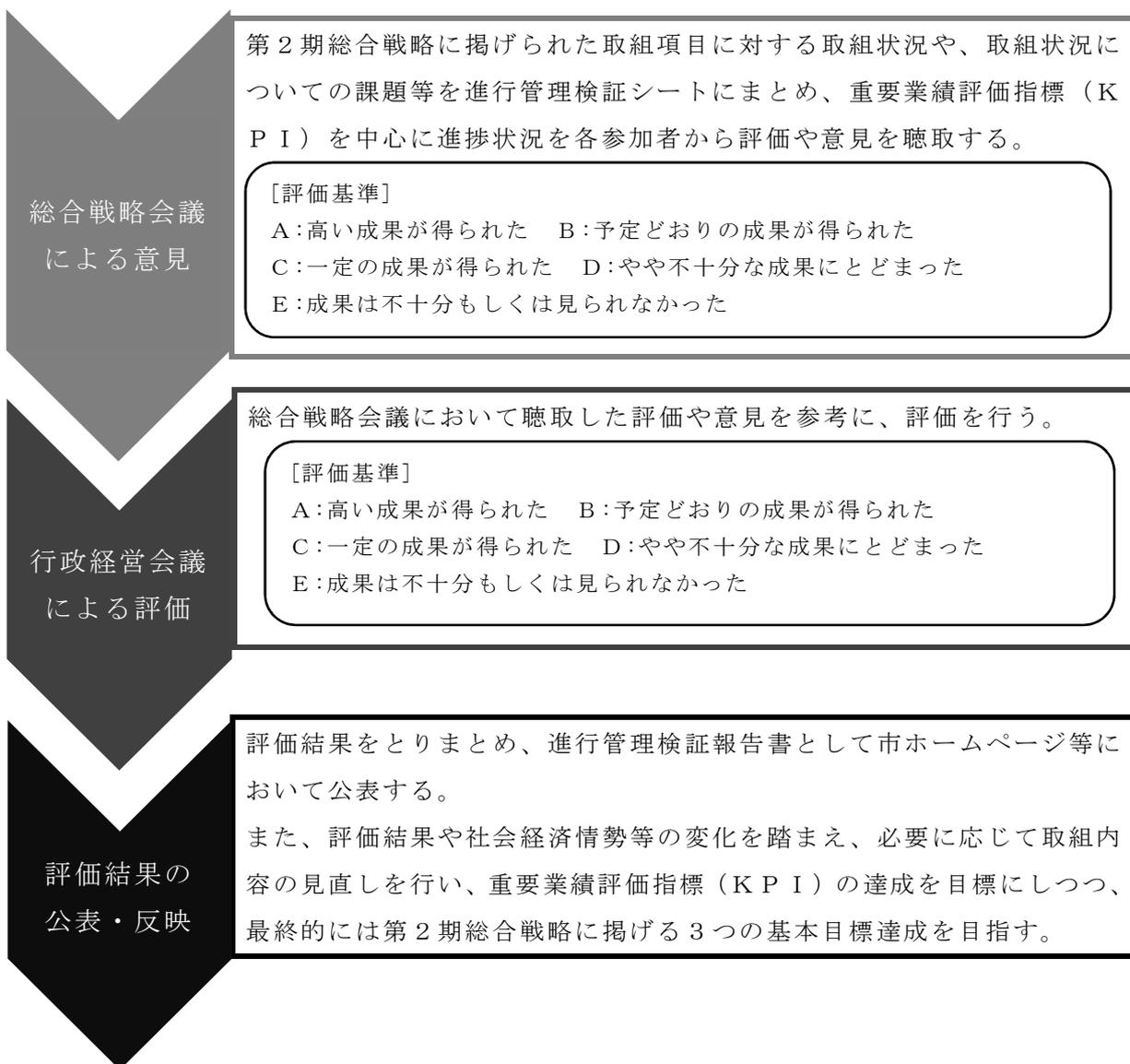
第2期総合戦略の進行管理については、計画期間内において確実な成果を達成するため、行政の執行部門と地域の事業関係主体とが、協働によりPDCAサイクルを実践することが可能となるよう、各担当部課が進捗状況を「生駒市行政経営会議」（以下、「行政経営会議」という。）に報告し、「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」（以下「総合戦略会議」という。）の意見を得ながら、行政経営会議において、計画の進捗状況を検証することになっている。

令和3年度以降、毎年、前年度の取組状況について、総合戦略会議において評価や意見を聴取し、行政経営会議において評価を決定する。また、報告書を議会に報告するとともに、市ホームページに公表する。



### (3) 各取組項目の評価方法について

進行管理を行うにあたって、令和3年5月25日に総合戦略会議（全体会）において、意見を聴取し、8月18日の行政経営会議において、市としての評価を行った。



## 2 令和2年度取組状況検証結果 総括

### (1) 評価結果の総括

各具体的施策をA～E評価した結果は、下記のとおりとなっている。

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	1	5.0
B:予定どおりの成果が得られた	6	30.0
C:一定の成果が得られた	13	65.0
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	20	100.0

すべての分野において「一定の成果が得られた」という基準以上の評価がなされ、全体的に取組の成果が得られたと言える。

#### ① 「基本目標1 子育てしやすいまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	1	11.1
B:予定どおりの成果が得られた	3	33.3
C:一定の成果が得られた	5	55.6
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	9	100.0

全ての項目で「一定の成果が得られた」以上となる中、特に、「1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進」については、A評価となっており、ホームページだけでなく、ツイッターを中心としたSNSでも子育て層が必要としている情報を効果的に発信することができた。

②「基本目標 2 働き盛り世代が希望の仕事をできるまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	1	16.7
C:一定の成果が得られた	5	83.3
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	6	100.0

6項目全てが「一定の成果が得られた」以上となる中、特に、「2-3-3 食に関する地域産業の創出」については、B評価となった。アウトカム指標として設定している「青年新規就農者数」や「地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数」が順調に推移しており、取組の充実がうかがえる。

③「基本目標 3 働き盛り世代が住みたいまち」の取組状況評価結果

評価基準	件数	割合 (%)
A:高い成果が得られた	0	0.0
B:予定どおりの成果が得られた	2	40.0
C:一定の成果が得られた	3	60.0
D:やや不十分な成果にとどまった	0	0.0
E:成果は不十分もしくは見られなかった	0	0.0
	5	100.0

5項目全てが「一定の成果が得られた」以上となっており、順調に取組が進んだ。コロナ禍において、イベント等の開催が制限される中、工夫を凝らして都市ブランドの形成につながる取組を推進することができた。

## (2) 地方創生推進交付金 K P I 一覧

多様な働き方の推進とこれを活用した都市イメージの向上による転入・定住促進事業

期間 (R1-R3)	K P I	目標値	実績値
		R 2	R 2
K P I ①	働き盛り世代 (25～44 歳) の純移動数 (対前年比)	+30 人	+109 人
	働き盛り世代 (25～44 歳) の純移動数	-102 人	+23 人
K P I ②	情報接触件数	40,000 件	116,685 件
K P I ③	多様な働き方に関するセミナー等参加人数	200 人	238 人
K P I ④	多様な住まい方・空き家活用関連事業参加人数	170 人	184 人

令和2年度  
施策の進捗状況検証結果  
個票

基本目標	1	子育てしやすいまち
------	---	-----------

■目指す姿  
多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもの数を持ち、ゆとりをもって生活(子育て)している。

■数値目標		
目標指標①	現状値(H29)	目標値(R6)
合計特殊出生率	1.27人	1.44人
目標指標②	現状値(R1)	目標値(R6)
子育て世帯の住みやすさの満足度	5.52点	6.02点

■施策体系



■数値目標のグラフ

目標指標1① 合計特殊出生率(人)

R1目標値	1.33	〈指標の説明〉 女性が一生のうちに産む子どもの数を示したものの、翌年1月1日現在の住民基本台帳をもとに市で独自に算出。出生率向上に向けた施策を実施することにより、令和6年度には1.44人を目標とします。
R1実績値	1.30	
達成状況	×	

目標指標1② 子育て世帯の住みやすさの満足度(点)

R3目標値	5.72	〈指標の説明〉 市民満足度調査における「総合的な住みやすさの満足度」を7点満点で評価したもの。就学前の子ども、小学校・中学校の子どもを持つ回答者の平均値。子育て支援を充実させ、毎年度0.1点増やし、令和6年度には6.02点を目標とします。 ※ H29・R2・R3実績値は郵送調査、H28・H30・R1実績値はWEB調査によるもの。
R3実績値	5.15	
達成状況	×	

■基本目標実現への効果等  
コロナ禍における、対面での支援が難しく、妊産婦や子育て世帯に対してのきめ細やかな支援ができなかった。保育サービスにおいても、可能な限りサービスを提供したが、緊急事態宣言下における家庭保育の協力などもあり利用者数は大きく減少した。一方で、教育分野においては、R2年12月に一人1台のタブレット端末の配布及び教室の無線LAN環境整備が概ね完了し、ICT教育が本格的にスタートした。コロナ禍において、様々な対面型の教育や行事が制限される中、オンライン授業の実施やキャリア教育の一環として「オンライン修学旅行」を実施し、可能な限りの教育活動を行った。  
目標指標については、合計特殊出生率はH30は1.38人と向上していたが、R1は1.30人と減少した。子育て層の住みやすさの満足度も5.15点となり、両指標とも目標を下回る結果となった。  
新型コロナウイルス感染症という大きな不安要素が新たに発生したため、令和2年度中に「目指す姿」に向けて前進したとは言い難いが、子育て世帯が希望する子どもの数を持って、ゆとりをもって子育てできるよう、引き続き支援するとともに、コロナ禍でも実施できる新しい支援方法を模索していく。

小分野	1-1-1	出産に対する経済的支援
-----	-------	-------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 不育症治療費及び一般不妊治療費助成	子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不育症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。	健康課
■令和2年度取組状況(D)		
不育症治療費助成事業はH28年度から取組を開始しており、不育症治療に要した検査費と治療費(医療保険適応分及び適応外分)の本人負担額の1/2で、1年度につき上限15万円を助成した。一般不妊治療費助成事業はH29年度から取組を開始し、一般不妊治療費に要した検査費と治療費(医療保険適応分及び適応外分)の夫婦の負担額の1/2で、1年度につき上限5万円を助成した。		
■成果(C)		■課題(C)
R2年度 不育症治療費助成事業は 支給件数 5件(延) R2年度 一般不妊治療費助成事業は、支給件数 70件(延)	不育症治療費助成・一般不妊治療費助成を実施することで、子どもを望む夫婦の経済的負担を軽減することにつながっている。今後も財源を確保しながら継続して実施する必要がある。	
■R3年度の取組予定(A)		
一般不妊治療費助成事業と不育症治療費助成事業について、制度の見直しを行い、より利用しやすい制度に変更していく。		

■具体的な取組(P)		■担当課
② 母子保健の充実	健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。	健康課
■令和2年度取組状況(D)		
市と全国の協力産婦人科医院との個別契約により、妊婦健診にかかる費用の窓口負担分の軽減を行い、受診しやすい環境整備を行った。また、乳幼児健康診査(3か月児・7か月児・12か月児・3歳6か月児)を小児科医療機関の協力のもと実施し、健診受診可能期間を見直し延長するなど受診しやすい環境整備を行った。1歳6か月児健診については、多職種が関わる集団健診を実施し育児支援を行った。		
■成果(C)		■課題(C)
R2年度 乳幼児健診受診率 90.6%	健診未受診者に対し、受診勧奨や未受診追跡等を今後も継続して実施する必要がある。	
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
乳幼児健診の対象者への個別通知を継続し、健診の必要性を市民に知らせる。また、健診未受診者には未受診追跡等を継続して実施する。さらに、育児教室や子育て相談を定期的に行い、育児支援に努める。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	1	4	1		
・乳幼児健診受診率は年々低下しており、要因を分析されたい。さらに、幼児の健康保持、増進に重要な取組であるので、未受診追跡を行うとともに、目的等も含め周知徹底を期待する。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 不育症治療費及び一般不妊治療費助成のPR件数(件)	①-A 不育症治療費助成支給件数(件)
R2目標値	R2目標値
5	30
R2実績値	R2実績値
5	23
達成状況	達成状況
O	X
	①-B 一般不妊治療費助成支給件数(件)
	R2目標値
	292
	R2実績値
	306
	達成状況
	O

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 乳幼児健診受診率(%)	②-A 育児に関する市民実感度(点)
R2目標値	R2目標値
96.2	72.0
R2実績値	R2実績値
90.6	63.7
達成状況	達成状況
X	X

※確定値は翌年度12月頃に確定。H28以前の暫定値は前年度対象者の当該年度受診者を含む。

■評価結果
C:一定の成果が得られた

小分野	1-1-2	産前産後ケアの充実
-----	-------	-----------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<b>マタニティコンシェルジュの配置</b> 妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。	健康課
■令和2年度取組状況(D)		
マタニティコンシェルジュが、妊娠期から関わりのある産婦等に電話などで状況確認し、アドバイスを行った。産後は「ママとベビーのおっぱい相談会」を開催し、助産師が授乳指導や育児相談を行った。また、地区担当保健師とマタニティコンシェルジュが連携して、妊娠期からの継続的な支援を行うことで、妊娠期から子育て期の支援を充実させた。		
■成果(C)		■課題(C)
マタニティコンシェルジュからの発信を含めた総相談件数は増加しており、妊産婦の不安解消に繋がっている。 【総相談件数】 H30:580件(うち発信383件)、R1:625件(うち発信386件)、R2:659件(うち発信454件)		新型コロナウイルス感染拡大の影響で、身近に相談できる人がいないまま育児している家庭が増えている。引き続き地区担当保健師とマタニティコンシェルジュが連携し、継続的な支援を継続することで、問題が深刻化する前に支援することが必要。
■R3年度の取組予定(A)		
マタニティコンシェルジュの母子健康手帳交付時における面接を継続し、支援が必要な家庭を速やかに支援できるよう実施していく。また、産前産後のサポートに不安がある家庭に対し、安心して子育てができるよう産後ケア事業をはじめとした様々な支援を引き続き周知し、実施する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<b>産後サポートの充実</b> 産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。	健康課
■令和2年度取組状況(D)		
新生児・乳児家庭訪問事業により各家庭を訪問し、育児の支援及び家庭の状況確認を行った。新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が出された際には、玄関先での確認や電話での育児状況の聞き取り等を行い、臨機応変に対応した。		
■成果(C)		■課題(C)
R2年度 新生児・乳児訪問実施率 95.1%		コロナ禍において様々な感染防止対策を講じた上で対応したが、家庭訪問自体を遠慮され、令和2年度は電話での対応を希望されたりコロナを理由に訪問希望されない方が増加した。
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
コロナ禍において、様々な対策を講じながら新生児・乳児家庭訪問を継続的に実施する。必要なご家庭には訪問後にも継続した関わりを実施し、産後の心身の安定と育児不安の解消を図る。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
		3	2	2		
・アウトカム指標である「育児について相談する相手がいる人の割合」につながるよう留意し、事業に取り組まれない。 ・コロナ禍の影響もあるが、育児相談ができない家庭の増加は深刻と考える。マタニティコンシェルジュなど身近な相談機能の周知、不安軽減の取組を強化されたい。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 マタニティコンシェルジュへの相談件数(件)	①-A 育児について相談する相手がいる人の割合(%)
R2目標値	R2目標値
217	87
R2実績値	R2実績値
205	80.1
達成状況	×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 新生児・乳児訪問の実施率(%)	②-A 産後の専門職による支援の満足度(%)
R2目標値	R2目標値
99.1	78.0
R2実績値	R2実績値
95.1	66.7
達成状況	×

■評価結果
<b>C : 一定の成果が得られた</b>

小分野	1-2-1	就学前保育の機能強化( I )
-----	-------	-----------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 保育所の整備	増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のこども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組みます。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年4月1日、小規模保育所「わらべ学園」を開園し、19名の定員増を図った。</li> <li>待機児童が多い地域を対象として、小規模保育等の公募に取り組んだ。</li> <li>幼稚園のこども園化も含めた「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」をまとめ、市民説明会及び対象園での意見交換会を実施するとともに、市民の意見を聴取するために、対象地域に地域協議会を設置した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
2者の公募に対して応募は1者であり、また、その1者もプロポーザル審査において選定されなかったため、令和3年度4月から、新規で小規模保育または家庭的保育を開園することができなかった。		駅周辺などニーズの高い場所に、小規模保育に適した物件を確保しにくいことが課題である。空き家の利活用と連携するなど、事業者の物件確保を支援する必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度と同様に、小規模保育または家庭的保育の事業者を公募し、早ければ令和3年度中、遅くとも令和4年4月からの開園を目指す。公募にあたっては、幅広く事業者を募ることができるよう、周知方法を工夫する。</li> <li>施設の老朽化改修に併せて、定員増も可能になるように工事を実施する保育園(會津生駒保育園)に対し、補助金を交付し支援を行う。</li> <li>令和2年度から継続して地域協議会を開催し、「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」に対する意見を取りまとめる。</li> </ul>		

■具体的な取組(P)		■担当課
② 保育士の確保	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組みます。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>常時勤務を要する職員に対して、給与加算を支出している事業者に対し、市単独の給与改善費補助金を交付し支援した。</li> <li>潜在保育士を発掘するため、「保育園・こども園見学ツアー」(3コース各1回)、「資格をいかそう相談会」(2回)及び職場体験(インターンシップ)(2回)を実施した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>給与加算に対する補助金を交付し、処遇改善を行うことで、保育士の確保を図ることができた。</li> <li>「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)の参加者から、フルタイム、パートタイムを併せ、9人を雇用することができた。</li> </ul>		毎年、一定の保育士の退職があるため、引き続き処遇改善を進めるとともに、新たな保育士の確保にも努める必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度から継続して、給与改善補助金を交付する。</li> <li>「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)を実施する。</li> </ul>		

■KPI(C)																
アウトプット		アウトカム														
①-1 保育所利用定員数(人)		①-A 実質待機児童数(人)														
		<table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>2,649</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>2,625</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	2,649	R3実績値	2,625	達成状況	×		<table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>22</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>19</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R3目標値	22	R3実績値	19	達成状況	○
R3目標値	2,649															
R3実績値	2,625															
達成状況	×															
R3目標値	22															
R3実績値	19															
達成状況	○															

■KPI(C)																
アウトプット		アウトカム														
②-1 「資格をいかそう!相談会」参加者数(人)		②-A 「資格をいかそう!相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数(人)														
		<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>36</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>21</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	36	R2実績値	21	達成状況	×		<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>9</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>16</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	9	R2実績値	16	達成状況	○
R2目標値	36															
R2実績値	21															
達成状況	×															
R2目標値	9															
R2実績値	16															
達成状況	○															
②-2 保育所入所児童数(人)																
		<table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>2,649</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>2,385</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	2,649	R3実績値	2,385	達成状況	×								
R3目標値	2,649															
R3実績値	2,385															
達成状況	×															

小分野	1-2-1	就学前保育の機能強化(Ⅱ)
-----	-------	---------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③ 保育コンシェルジュの活用	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組めます。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>偏りがちな入所希望先の均衡を図り待機児童の解消につなげるため、再任用職員1人と補助としてパートタイム任用職員1人を配置し、年間で512件の相談を受けた。</li> <li>市内の保育園・幼稚園・こども園の紹介や子育て支援の情報を集めた保育コンシェルジュブックを作成し、市ホームページに掲載することで情報発信を行った。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>入所希望家庭の事情にあったきめ細かな入所案内を行うことで、待機児童数を削減することができた。</li> <li>希望する園を利用できなかった場合のアフターフォローを実施することができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方の変化に伴い、今後も保育需要が増加が見込まれるため、引き続き待機児童解消のための取組は必要である。</li> </ul>
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度から保育コンシェルジュを1人増員し、より充実した体制により相談業務を実施する。</li> <li>市役所から出向いて相談業務を実施する出前相談会の実施回数を増やす。</li> </ul>		

■具体的な取組(P)		■担当課
④ 就学前保育・教育サービスの充実	働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に応じた就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>公立保育所4園、私立保育所23園のうち、延長保育：全園、一時預かり保育：私立9園、休日保育：私立1園、病児保育：私立2園、病後児保育：私立1園、病後児保育(体調不良児対応型)：私立8園でそれぞれ実施した。</li> <li>幼稚園での預かり保育については、令和2年度から全園で水曜日実施、きょうだい減免の設定などサービスを充実させるとともに、さらなる拡充に向け、1園で夏休み期間中の預かり保育をモデル実施した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所、幼稚園ともに、多様化するニーズに一定対応することができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、就学前保育・教育に関するニーズは多様化が見込まれるため、常に変化を把握し、柔軟に対応することが必要である。</li> </ul>
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園における延長保育、一時預かり保育など、令和3年度も継続して実施する。</li> <li>幼稚園での夏休み期間中の預かり保育は、令和2年度のモデル実施を踏まえ、令和3年度から全園で実施する。</li> </ul>		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	2	2	2		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワークの普及等コロナ禍における育児環境の変化も意識して事業を展開された。</li> <li>・「資格を生かそう相談会」等への参加により、一定数の新規雇用につながっているが、参加者が伸びない要因の分析も含め、更なる保育人材不足の解消に向けて取り組まれない。</li> </ul>						
【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった						

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
③-1 保育コンシェルジュ相談件数(件)	③-A 実質待機児童数(人)【再掲】
R2目標値 603	R3目標値 22
R2実績値 512	R3実績値 19
達成状況 ×	達成状況 ○

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
④-1 保育所での一時預かり保育利用児童数(人)	④-A 保育サービスの満足度(点)
R2目標値 6,900	R2目標値 60
R2実績値 3,737	R2実績値 52
達成状況 ×	達成状況 ×
アウトプット	
④-2 保育所での休日保育利用児童数(人)	④-3 病児・病後児保育利用児童数(人)
R2目標値 95	R2目標値 1,800
R2実績値 34	R2実績値 1,390
達成状況 ×	達成状況 ×
④-4 幼稚園での預かり保育利用園児数(人)	
R2目標値 18,685	
R2実績値 10,656	
達成状況 ×	

■評価結果
C:一定の成果が得られた

小分野	1-2-2	学童保育の機能強化
-----	-------	-----------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 学童保育の充実	増加する保育需要に従い増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組めます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学童保育指導員に、新たに「地区代表主任」2名を設け、各学童保育所への巡回指導などによる指導員の資質向上や課題対応に取り組む、増加する学童需要に対応できる体制を確保した。</li> <li>令和2年4月に正規指導員の昇給を行うなど、待遇改善に取り組んだ。</li> <li>民間保育事業者の参入促進を図るため、学童保育開設をテーマとしたセミナーをオンラインで開催した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区代表主任と連携して早期に課題対応することにより、指導員の離職を、一定数に抑えることができた。</li> <li>セミナーは、リアルタイムで22人、アーカイブで33人の閲覧があった。</li> </ul>		学童保育の需要は今後も増加し、またニーズも多様化することが見込まれるため、指導員や保育場所を確保するとともに、民間事業者の参入を促進する必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区代表主任による巡回指導や、全指導員を対象とした研修を継続して実施する。</li> <li>生駒市学童保育運営協議会による学童保育所だけでは、学童需要に対応することが困難であるため、令和4年度からの開設を目指し、プロポーザルにより民間事業者を募集する。</li> </ul>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<b>①-1 生駒市学童保育運営協議会による学童保育実施箇所数(箇所)</b> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>27</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>27</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	27	R2実績値	27	達成状況	○	<b>①-A 学童保育サービスの満足度(点)</b> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>56</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>52</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	56	R2実績値	52	達成状況	×
R2目標値	27												
R2実績値	27												
達成状況	○												
R2目標値	56												
R2実績値	52												
達成状況	×												
<b>①-2 民間保育事業者による学童保育実施箇所数(箇所)</b> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>6</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	6	R2実績値	6	達成状況	○							
R2目標値	6												
R2実績値	6												
達成状況	○												

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	4	2			
<small>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</small>						

■評価結果
<b>B : 予定どおりの成果が得られた</b>

小分野	1-3-1	教育環境の充実( I )
-----	-------	--------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① ICTを活用した教育の推進	教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、ICT機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。	教育指導課
■令和2年度取組状況(D)		
GIGAスクール構想に基づく、1人1台タブレット端末の配布と教室の無線LAN環境整備をR2.12月に概ね完了した。また、教師用の授業用端末を整備し配布することで、授業用端末と児童生徒の成績情報等を管理する校務用端末とを完全に分離し、奈良県が求めるレベルのセキュリティの確保を実現した。さらに、ICT機器の利活用を進めるために教員向けの研修を行ったことに加え、臨時休業中や出席停止期間中のオンライン授業や、オンライン参観・懇談会、タブレット端末の授業での活用など、各校での取組を共有することで情報の横展開を行いICT機器活用能力のボトムアップを行った。		
■成果(C)	■課題(C)	
学校内での無線環境と1人1台端末が揃ったことにより授業での活用が広がった。Google workspace for Educationや、ロイノートなどの協同学習ソフトを活用することで学びを深める活動ができた。また、キャリア教育でも積極的にICTを活用することで、ICT機器の利活用を進めた。	奈良工業高等専門学校との連携が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。また、活用が進んでいる学校とそうでない学校の差はまだある状況であるため、利活用のボトムアップは引き続き必要である。	
■R3年度の取組予定(A)		
ICTの利活用を進めるため、各校からICT担当職員の集まる場を設け、情報の横展開を進めるとともに、引き続き各校の取組を共有していく。教員の研修を深めることで端末活用の幅を広げ、様々な場面でICTを活用した取組を進める。また、キャリア教育においても積極的にICTツールを活用していき、文部科学省が示しているICT機器を活用した「令和の日本型教育」の生駒モデルの構築を目指す。		

■具体的な取組(P)		■担当課
② 英語教育の推進	小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中9年間を見通したカリキュラムを作成したうえで外国語指導助手(ALT)の配置や、小学校1年生から市独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。	教育指導課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校1年及び2年において、外国語活動を年10時間実施。市独自の教材を用いて、全時間ALTが授業に参加。</li> <li>小学校3年及び4年において、外国語活動を年35時間実施。内、ALTが16時間授業に参加。</li> <li>小学校5年および6年において、外国語科の授業を年70時間実施。内、ALTが16時間、わくわくイングリッシュサポーターが15時間授業に参加。</li> <li>中学校1年～3年において、外国語科の授業140時間実施。内、ALTが15時間参加。</li> <li>生駒市英語教育担当者会議を2回開催し、市独自の英語カリキュラムの内容確認や、英語教育に関する小中連携の必要性について確認した。</li> </ul>		
■成果(C)	■課題(C)	
小学校1年生から英語に慣れ親しむことにより、英語を使うことやALTとコミュニケーションをとることに抵抗がない児童生徒が年々増えている。	R3年度から中学校において新学習指導要領が全面実施され、小学校6年生と中学校1年生の学習内容に大きな隔りがある。子どもたちの学びをスムーズに接続できるように小中が連携する必要がある。	
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度同様、ALTおよびわくわくイングリッシュサポーターの配置をする。</li> <li>生駒市英語教育小中連携会議を2回開催する。また、中学校区ごとに小中間の教員交流、授業参観、出前授業などを具体的に計画・実施し、小中連携を推進する。</li> </ul>		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 小中学校教員が授業にICTを活用して指導する能力(%)	①-A 児童(小6)の授業でのICT活用への意欲度(%)
R2目標値 72.0	R2目標値 88.0
R2実績値 91.3	R2実績値 83.8
達成状況 ○	達成状況 ×
	①-A 生徒(中3)の授業でのICT活用への意欲度(%)
	R2目標値 79.0
	R2実績値 74
	達成状況 ×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 英検準1級以上の英語力を有する中学校英語担当教師の割合(%)	②-A 英検3級相当以上の英語力を有する中学生の割合(%)
R2目標値 65.0	R2目標値 61.0
R2実績値(※) -	R2実績値(※) -
達成状況 -	達成状況 -
②-2 英検準1級以上の英語力を有する小学校英語担当教師の割合(%)	※文部科学省による「英語教育実施状況調査」がR2年度は実施されなかったため、実績値なし。
R2目標値 4.0	
R2実績値 -	
達成状況 -	

小分野	1-3-1	教育環境の充実(Ⅱ)
-----	-------	------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	<p><b>夢を与える講演会・学校創造推進事業</b></p> <p>自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めていくため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方(文化人、スポーツ関係者、事業者等)を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。</p>	教育指導課
■令和2年度取組状況(D)		
<p>学校創造推進事業については、コロナ禍においても、動物とのふれあいや栽培活動など、できる範囲で各校が特色ある体験学習等を実施した。</p> <p>また、キャリア教育の一貫で実施した、あすか野小学校でのオンライン修学旅行では、子どもたちが自主的に実行委員会の中で活動し、広島電鉄やオタフクソースなどの企業との折衝や企画にも携わり、自ら企画を進め、達成することを経験した。他の学校においても、生駒市出身の方をはじめ、さまざまな生き方をしているゲストの協力を得てキャリア教育を実施し、子どもたちが抱えている現在の勉強についての悩み、仕事や働き方に対する疑問に答えた。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p>コロナ禍でキャリア教育を行うにあたり、1人1台端末を最大限活用することで、リモートでの対応などICTの利活用についても進めることができた。また、学校現場での課題に対し、1つ1つ異なったハンドメイドの取組を進めたことにより、学校における満足度が高めることができた。学校創造推進事業では、予算を必要としないものについてもカウントすることで、大きく実施回数が増え、学校で行っている取組を把握できた。</p>		<p>キャリア教育においては、希望に基づき一つ一つの学校ごとに異なる取組を進めたため、実施学校の偏りが生じた。また、学年についても小学校なら高学年になり、学年にも偏りが生じた。コロナ禍により、多くの制限がある中で、スムーズに取組を進める手法を模索し続ける必要がある。</p>
■R3年度の取組予定(A)		
<p>キャリア教育の進め方としては、現場のニーズに対応しハンドメイドで設計するというスタンスは維持するものの、R2年度には実施できなかった複数の学校での同時実施や、低学年でもできる取組を模索していく。</p> <p>学校創造推進事業については、引き続き、「特色ある」「信頼される」「開かれた」教育活動や学校づくりをさらに充実発展させるための取組を進める。</p>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>③-1 学校創造推進事業の実施回数(回)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>1,560</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>2,074</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	1,560	R2実績値	2,074	達成状況	○	<p>③-A 自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>81.0</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>75.2</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	81.0	R2実績値	75.2	達成状況	×
R2目標値	1,560												
R2実績値	2,074												
達成状況	○												
R2目標値	81.0												
R2実績値	75.2												
達成状況	×												
<p>③-2 生駒こどもチャレンジ補助事業の実施回数(回)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>4</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>1</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	4	R2実績値	1	達成状況	×							
R2目標値	4												
R2実績値	1												
達成状況	×												

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	3	2	1		
<p>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</p>						

■評価結果
<b>B：予定どおりの成果が得られた</b>

小分野	1-4-1	子育て世帯を応援する情報提供の推進
-----	-------	-------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	子育て世帯向けの多様な情報発信	子育て支援総合センター 健康課 ICTイノベーション推進課 広報広聴課
<p>子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。</p>		
■令和2年度取組状況(D)		
<p>【子育て支援総合センター】 従来のHPや広報紙、電子版親子手帳での発信に加え、Twitterによる最新の情報発信の機会を増やした。 【健康課】 乳幼児の予防接種や定期健診スケジュールだけでなく、妊婦向けの教室や育児相談のスケジュールも電子版親子手帳を利用して情報発信した。 【ICTイノベーション推進課】 子育て世帯を対象に情報提供等を行うイベントなどにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため担当課がオンライン開催を検討するにあたり、イベントの開催方法や使用するオンラインツールについて必要な技術的支援を行った。 【広報広聴課】 ・R2年度に新たに採用したInstagramを含め、7つのツール(広報紙、ホームページ、twitter、facebook、Instagram、チラシ・ポスター、カタログポケット)でそれぞれの特徴を生かしたタイミングや内容を精査し、情報発信することで、子育て世帯が情報を入力しやすい環境を整備した。 ・広報紙において、子育て世帯向けの連載ページの紙面を拡大し、さらに情報を集約し発信した(R2年4月号から)。 ・市ホームページの課題を洗い出し、使いやすさやアクセシビリティの向上、さらなるスマートフォンでの閲覧に対応した市ホームページのリニューアル(子育て世帯に対しては、ライフシーンの再設定、イベント検索に「子ども・親子」や「土曜・日曜日、祝日に参加できる」等の検索条件の設定等による利便性向上)を行った。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p>【子育て支援総合センター】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から事業の中止・内容の見直し相次ぎ、タイムリーに情報を発信するため、Twitterによる情報発信数が格段に増え、目標を大幅に上回った。 【健康課】 R2年度 電子版親子手帳利用者数 1200人 【ICTイノベーション推進課】 申込状況の都合上、三密を回避できる状況での対面実施が可能となったことから、オンライン形式では実施しないこととなった。 【広報広聴課】 ・広報紙発行部数、47,230部(R2年度平均)、ホームページ閲覧数(妊娠・出産6,464件、子育て・教育65,297件。R2年度)、twitter登録者数(広報広聴課2,542人、子育て・教育情報817人、保育・幼稚園1,166人。R3.4.20現在)、facebookページいいね数(5,547人。R2年度末)、Instagram登録者数(1,135人。R2年度末)、カタログポケット閲覧数(966viewコロナ関連情報含む。R3.4.20現在) ・市ホームページのリニューアル(R3年3月)では、ライフシーンを再設定したことで、必要な情報により早く到達できるようになり、また、イベント検索に検索条件を設定したことで、情報を探しやすくなった。</p>		<p>【子育て支援総合センター】 各ツールの特性を活かした、より効果的な情報発信を行う。 【健康課】 登録したのち、定期的に電子版親子手帳を活用してもらえよう、周知が必要。 【ICTイノベーション推進課】 感染症の拡大など社会情勢の変化に対応し、子育て世帯を応援する情報提供を継続的に行うためには、オンライン化等に対応できるICT人材の育成や、デジタル面での安全性をより一層強化することが求められる。 【広報広聴課】 情報発信ツールの増加とともに、事務作業や経費が増加することになる。また、日々新たなツールが開発されており、費用、効果、安全性などを検証し、新たなシステムの導入や場合によっては廃止の検討をする必要がある。</p>
■R3年度の取組予定(A)		
<p>【子育て支援総合センター】 従来の多様なツールを活用しつつ、情報発信媒体の特性を活かしたより効果的な情報発信を行う。 【健康課】 電子版親子手帳を登録し、定期的に活用してもらえよう、各種教室等でPRの機会を増やす。 【ICTイノベーション推進課】 子育て世帯を応援する情報提供について各課より相談が寄せられた際には、引き続き必要な技術的支援を行う。また、庁内向けデータ活用研修等によるICT人材の育成や、情報セキュリティの強靱化を図る。 【広報広聴課】 ・広報紙等における子育て世帯を対象にした情報発信において、引き続き情報の伝わりやすさや行動につながる工夫・発信を行う。 ・市ホームページの各コンテンツにおいて、より伝わりやすい組み立て方を業務担当課と調整し、情報発信を行う。 ・子育て世帯が、どのような情報発信・収集ツールを使っているかを常に意識し、現在の情報発信ツールの改善や新たなツールの導入等を検討する。</p>		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	5	2				
<p>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</p>						

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 情報発信・共有するツール数(種類)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>7</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>7</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	7	R2実績値	7	達成状況	○	<p>①-A 子育て関連ページへのアクセス件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>36,053</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>71,761</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	36,053	R2実績値	71,761	達成状況	○
R2目標値	7												
R2実績値	7												
達成状況	○												
R2目標値	36,053												
R2実績値	71,761												
達成状況	○												
<p>①-2 電子版親子手帳利用者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>995</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	995	R2実績値	1,200	達成状況	○							
R2目標値	995												
R2実績値	1,200												
達成状況	○												
<p>①-3 Twitter発信数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>40</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>164</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	40	R2実績値	164	達成状況	○							
R2目標値	40												
R2実績値	164												
達成状況	○												

■評価結果
A : 高い成果が得られた

小分野	1-4-2	子育て世帯の交流促進
-----	-------	------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	子育て世帯同士の学び・交流支援 子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。	子育て支援総合センター こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<b>【子育て支援総合センター】</b> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため6月まで事業を中止し、7月より申込制・定員制に変更して、段階的に定員を増やして事業を実施した。また、子育てサークルや子育て支援ボランティア団体に対し、活動場所の提供・情報発信の支援を行うことで、地域での活動を支援した。 <b>【こども課】</b> ・保育園・こども園8か所で地域子育て支援拠点事業を実施し、乳幼児及びその保護者が交流する場所を提供するとともに、子育てについての相談、情報提供、助言などの支援を行った。 ・例年幼稚園・保育園で実施していた園庭開放や未就園児のつどいは、新型コロナウイルスの影響で一部実施できなかった。(園庭開放(保育園)9月から実施、園庭開放(幼稚園)5月後半のみ実施、未就園児のつどい(幼稚園)9月から実施) ・公立幼稚園5園で、夏休み期間中にリズム室開放を実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
<b>【子育て支援総合センター】</b> コロナ禍で感染拡大防止にできる限り配慮しながら、より多くの子育て世帯の交流の機会を設けるため、1事業日に2回、事業を実施した。 <b>【こども課】</b> 地域子育て拠点事業や一部実施した園庭開放では、親子が自由に遊べる場の提供だけでなく、季節に合わせた行事や子育て相談なども実施し、交流を促進するとともに保護者支援ができた。		<b>【子育て支援総合センター】</b> 従来は申込不要の事業であるため、申込制にすることで利用の機会が限定された。また、参加できなかった家庭に対するフォローを行う必要がある。 <b>【こども課】</b> 新型コロナウイルス感染拡大対策と子育て世帯の交流の場の提供をどのように両立させるかが課題である。
■R3年度の取組予定(A)		
<b>【子育て支援総合センター】</b> 感染症対策に努め、申込制・定員制での事業を継続し、子育て相談については、個別の相談を受けれるよう案内をする。 <b>【こども課】</b> 生駒市に「感染拡大緊急警報」が発令されたことを受け、4月現在、事業を中止している。今後の実施については、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら検討する。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 ひろば事業参加者数(人) 	①-A ひろば事業参加者満足度(%) 
①-2 市直営拠点(みっきランド・はばたきみっき)利用者数(人) 	

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1			3	3	

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■評価結果
C:一定の成果が得られた

小分野	1-4-3	地域で子育てを見守る体制の強化
-----	-------	-----------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	地域・行政・周囲のひとによる子育ての見守り強化 子育て世帯の孤立化を防ぎ、子どもたちが安心して成長できるよう、乳幼児を持つ家庭への訪問による見守り、相談等を実施し、虐待等の未然防止に努めるとともに、家庭、保育機関、学校、地域等が連携して子どもの人権や安全を守る意識を育てます。	子育て支援総合センター健康課
■令和2年度取組状況(D)		
【子育て支援総合センター】 年度初めの段階で、開催希望の園はあったが、コロナ禍でCAP講師側が開催できないということになった。また、園側も、コロナ禍で行事が後ろ倒しになったことから、CAPを開催する時間がとれなくなった。 【健康課】 新生児・乳児家庭訪問事業により各家庭を訪問し、育児の支援及び家庭の状況確認を行った。新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が出された際には、玄関先での確認や電話での育児状況の聞き取り等を行い、臨機応変に対応した。		
■成果(C)		■課題(C)
【子育て支援総合センター】 開催はできなかったが、ニーズはあると思われる。 【健康課】 R2年度 新生児・乳児訪問実施率 95.1%		【子育て支援総合センター】 コロナ禍でも開催できるような対策を講じる。 【健康課】 コロナ禍において様々な感染防止対策を講じた上で対応したが、家庭訪問自体を遠慮され、令和2年度は電話での対応やコロナを理由に訪問希望されない方が増加した。
■R3年度の取組予定(A)		
【子育て支援総合センター】 今年度、開催希望の園とCAP講師と共に、コロナへの対策を行った形で開催する。 【健康課】 コロナ禍において、様々な対策を講じながら新生児・乳児家庭訪問を継続的に実施する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	ファミリー・サポート事業の利用促進 ファミリー・サポート事業の会員登録を進め、地域における育児の相互援助活動を推進し、地域全体で子どもたちの成長を見守り、子育て世帯の孤立化防止につなげます。	子育て支援総合センター
■令和2年度取組状況(D)		
広報いこまちに特集記事を掲載し、ファミリーサポート事業の周知を行った。また新たに転換制度の導入、センターでの預りなどを開始した。		
■成果(C)		■課題(C)
年度当初は、不要不急の活動自粛を求め、在宅ワークが増えるなどの社会変化に伴い、活動数が激減したが、後半は会員登録数および活動件数が伸びた。		新規依頼会員が70名に対し、新規援助会員が11名(内両方会員2名)と、援助者が不足している。
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
引き続き新規援助会員の登録を促進し、多様なニーズに対して迅速に対応できるよう努めるとともに、今後も安全面の向上を図る。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1		2	4		
・コロナ禍での講習会開催なので参加者数が目標値を下回ったことはやむを得ない。 ・ファミリー・サポート事業について、急に支援が必要になった場合への対応など、ニーズの多様化も考慮し、スキームの見直しも含めて多面的に検討されたい。 ・援助会員の募集について、子育てが終わった直後の世帯や中高年世帯などにターゲットを絞って働きかけてはどうか。						
【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった						

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 新生児・乳児訪問の実施率(%)【再掲】 	①-A 子育て支援サービスの満足度(点) 
R2目標値	R2目標値
99.1	54.0
R2実績値	R2実績値
95.1	51.7
達成状況	達成状況
×	×
①-2 CAP講習会の開催回数(回) 	
R2目標値	
27	
R2実績値	
22	
達成状況	
×	

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 ファミリー・サポート事業の依頼会員数(人) 	②-A ファミリー・サポートの利用件数(件) 
R2目標値	R2目標値
618	2,155
R2実績値	R2実績値
647	1,446
達成状況	達成状況
○	×
②-1 ファミリー・サポート事業の援助会員数(人) 	
R2目標値	
179	
R2実績値	
167	
達成状況	
×	

■評価結果
C:一定の成果が得られた

小分野	1-5-1	災害・犯罪等に対する安全性の向上( I )
-----	-------	-----------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	指定避難所への防災備蓄 災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。	防災安全課
■令和2年度取組状況(D)		
災害用備蓄倉庫内の資機材整備については、計画どおりの実施となった。また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を利用し、計画を前倒して、災害用備蓄倉庫11カ所の設置を進めた。		
■成果(C)		■課題(C)
当初予定していた2箇所の災害用備蓄倉庫設置と資機材配備を実施した。災害用備蓄倉庫については、更に計画数を大幅に上回る設置を行うことができた。		近年の豪雨災害、地震災害等の発生状況や災害規模を踏まえるとともに、災害時における新型コロナウイルス感染症等の感染拡大を防止する為には、災害備蓄や災害対応体制を更に充実させる必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
令和2年度設置の災害用備蓄倉庫11箇所への防災資機材の配備を行い、既存の備蓄倉庫については備品等の機能点検を行い、災害発生に向け備えていく。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 災害用備蓄倉庫設置箇所数(箇所)	①-A 消防署・避難所などの防災施設の満足度(点)
R2目標値	R2目標値
17	53.0
R2実績値	R2実績値
28	51.2
達成状況	達成状況
O	X

■具体的な取組(P)		■担当課
②	自主防災会の活動支援・促進 自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協体制の強化を促します。学校区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。	防災安全課
■令和2年度取組状況(D)		
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年間を通じて自主防災会が防災訓練を中止されるところが多く、自主防災会活動補助金の申請件数は大きく減少した。また、校区別防災訓練も減少した。一方で、生駒市アマチュア無線非常通信協会等との訓練を行うことや同協会他5団体と大規模災害時における協力に関する協定の締結を行うことなどの成果をあげることはできた。		
■成果(C)		■課題(C)
自主防災会の活動支援・促進の観点からは、自主防災会の新規結成が1団体。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、校区別防災訓練は、2校区にとどまった。災害協定等は生駒市アマチュア無線非常通信協会他5団体と締結することができた。		自主防災会内で、継続的な防災活動が行われにくい状況となっており、地域の防災対策の継承や防災力の向上につながっていない。
■R3年度の取組予定(A)		
令和3年度生駒市総合防災訓練において、各自主防災会ごとの事前準備、訓練の実施、訓練後の検証等を今後の地域での防災力向上の為に継承していくことができるよう支援を実施する。		

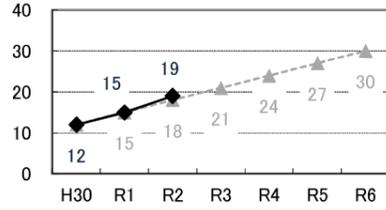
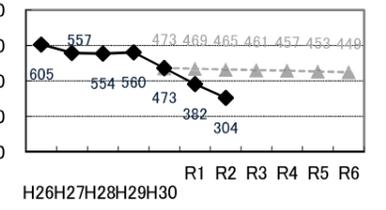
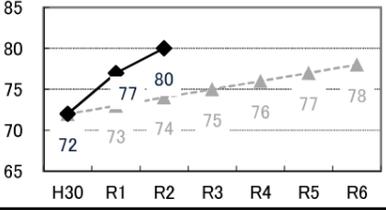
■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 自主防災会活動推進補助金利用団体数(団体)	②-A 小学校区単位での防災訓練の実施回数(回)
R2目標値	R2目標値
33	5
R2実績値	R2実績値
6	2
達成状況	達成状況
X	X

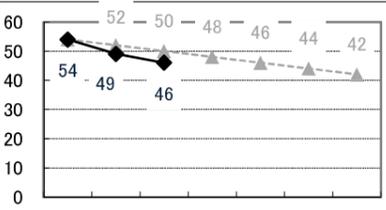
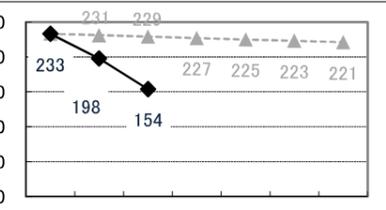
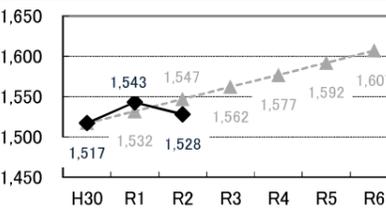
小分野	1-5-1	災害・犯罪等に対する安全性の向上(Ⅱ)
-----	-------	---------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	自主防犯活動の支援・促進 犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。	防災安全課
■令和2年度取組状況(D)		
自主防犯意識の高揚の一助として、自治会内での防犯カメラの設置に対して補助金を交付するとともに、防犯活動用品の貸出し等を行うなど、自治会の自主防犯活動を支援した。 また、市から市防犯協議会(市・生駒署等で組織)に対して補助金を交付し、防犯協議会(事務局は生駒署)の下部組織である「生駒市地域安全推進委員」により自主防犯巡回パトロール(青パト/徒歩)の実施、児童の登下校の見守り等の活動を実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
防犯カメラの設置を通じて、自治会内における防犯意識の醸成をもたらし、地域の犯罪抑止効果を高めることができた。		市として防犯カメラ設置後の運用を懸念する意見も受けることから、設置(又は設置希望)自治会に対して、引き続き(事前の)周知の徹底を求めている必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
令和3年度においても、自治会内での防犯カメラの設置に対する補助金の交付、防犯活動用品の貸出し、市防犯協議会に対する補助金の交付等、自主防犯意識の高揚の一助となるよう引き続き側面から支援する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
④	通学路等安全対策 子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の危険箇所について合同点検を行った。10月に行われた合同会議では、全体で対策内容を協議し、決定した対策内容を学校・幼稚園・保育園に報告した。令和2年度に対策が決定した対策必要箇所については、予算を伴うことから、基本的に令和3年度以降に対応する予定となっている。 【防災安全課】 『「子ども110番の家」活動マニュアル』について記載内容を充実させ、「子ども110番の家」の普及促進に努めた。	教育総務課、こども課、防災安全課、事業計画課、土木課、管理課、障がい福祉課
■令和2年度取組状況(D)		
【教育総務課】 6月から7月にかけて小学校などから通学路における危険箇所を抽出し、8月に市関係各課、生駒警察署、郡山土木事務所、小学校、幼稚園、保育園、地域住民とともに小学校通学路・未就学児が日常的に集団で移動する経路等の危険箇所について合同点検を行った。10月に行われた合同会議では、全体で対策内容を協議し、決定した対策内容を学校・幼稚園・保育園に報告した。令和2年度に対策が決定した対策必要箇所については、予算を伴うことから、基本的に令和3年度以降に対応する予定となっている。 【防災安全課】 『「子ども110番の家」活動マニュアル』について記載内容を充実させ、「子ども110番の家」の普及促進に努めた。		
■成果(C)		■課題(C)
【教育総務課】 小学校通学路については、平成24年から点検を行い、対策必要箇所においては、路面標示やグリーンベルト、電柱幕等を設置することで通行車両に注意喚起を行うことができた。また、ストップマークの設置などを行うことで、歩行者に対しても気を付けて歩行するように働きかけることができた。		【教育総務課】 ・関係機関等が多岐にわたっているため、全員が一度で確認できるような連絡体制が構築できていない。 ・対策内容により所管する担当課同士での協議や合同点検の日程調整等に時間を要するため、公表するのに時間がかかる。
■R3年度の取組予定(A)		
【教育総務課】 危険箇所を学校・園等から集約し、合同点検を行う予定。令和元年度から過去に交通事故が起きた交差点や、未就学児が日常的に集団で移動する経路等の危険箇所についても点検対象となった。点検対象が増加した中でも、各課との連携を密に行い、危険箇所を減らすことができるよう取り組みたい。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	3		3	1		
【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった ・女性防災士も増えてきているので、うまく力を借りて、多面的な活動展開ができるよう取り組みたい。 ・災害時の避難所運営に感染症対策が求められる。防災訓練を継続的に実施し有事に備えられたい。 ・防犯意識が高まっており、犯罪認知件数も右肩下がりになっている。住みよいまちとしてのプレゼンス向上にもつながっている。 ・交通安全施策は国や県に任せるとはせず、積極的に取り組みたい。						

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
③-1 防犯カメラ設置自治会数(自治会)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>18</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>19</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	18	R2実績値	19	達成状況	○	③-A 刑法犯罪認知件数(件)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>465</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>304</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	465	R2実績値	304	達成状況	○
R2目標値	18												
R2実績値	19												
達成状況	○												
R2目標値	465												
R2実績値	304												
達成状況	○												
③-2 防犯活動用品貸出団体数(団体)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>74</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>80</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	74	R2実績値	80	達成状況	○							
R2目標値	74												
R2実績値	80												
達成状況	○												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
④-1 通学路の対策必要箇所数(箇所)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>50</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>46</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	50	R2実績値	46	達成状況	○	④-A 交通事故(人身)の発生件数(件)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>229</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>154</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	229	R2実績値	154	達成状況	○
R2目標値	50												
R2実績値	46												
達成状況	○												
R2目標値	229												
R2実績値	154												
達成状況	○												
④-2 「子ども110番の家」設置件数(件)  <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>1,547</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>1,528</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	1,547	R2実績値	1,528	達成状況	×							
R2目標値	1,547												
R2実績値	1,528												
達成状況	×												

■評価結果
<b>B: 予定どおりの成果が得られた</b>

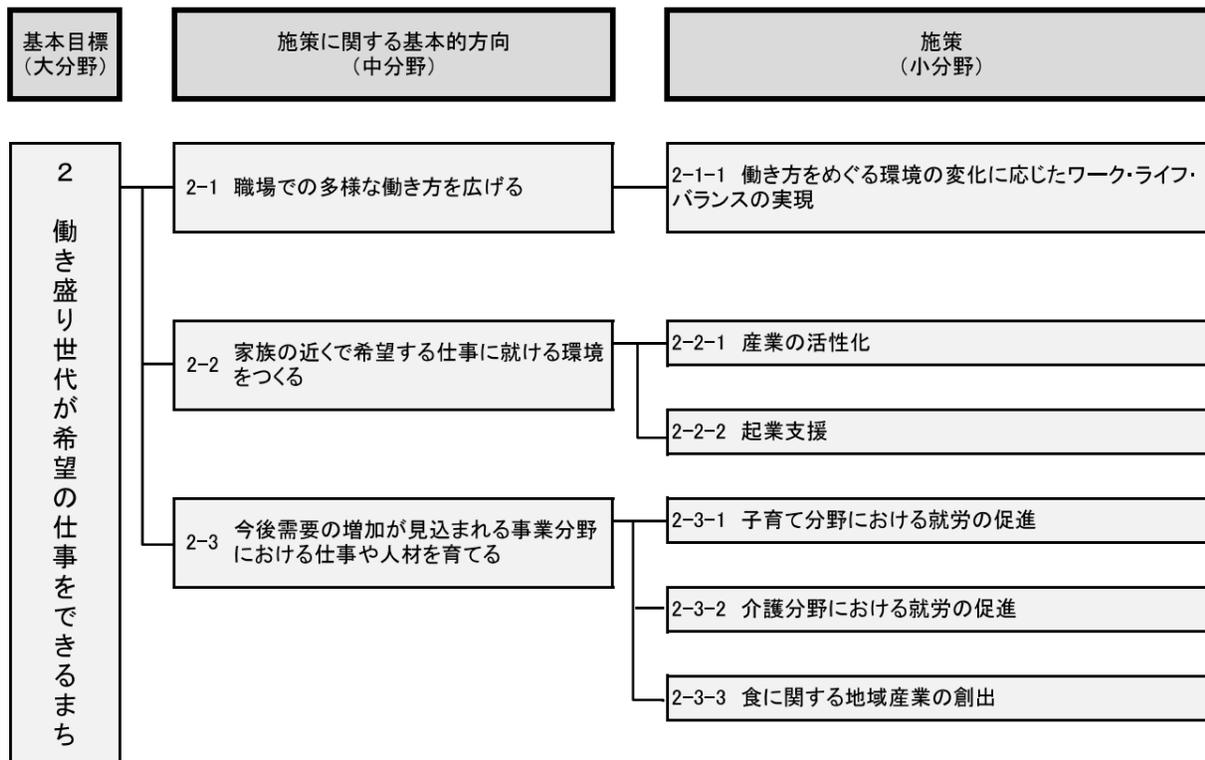
基本目標	2	働き盛り世代が希望の仕事ができるまち
------	---	--------------------

■目指す姿

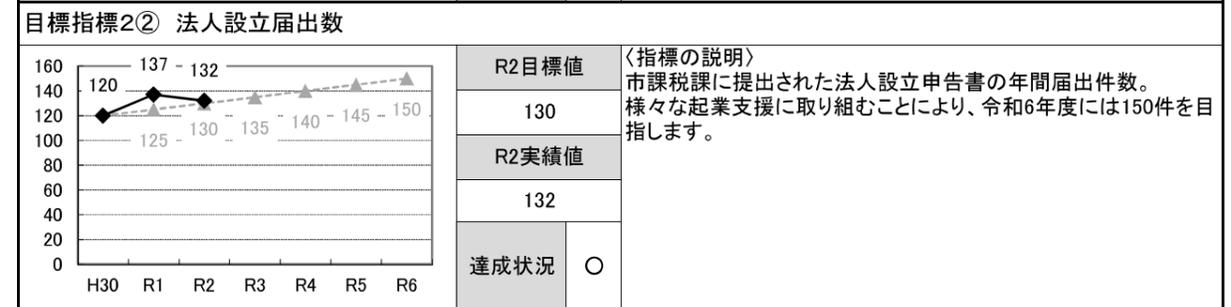
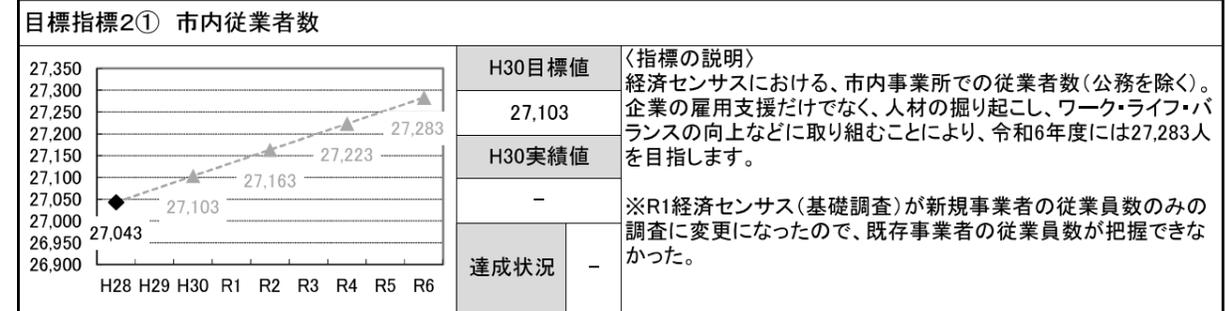
ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するするなど家族の近くで希望の仕事ができている。

■数値目標		
目標指標2①	現状値(H28)	目標値(R6)
市内従業者数	27,043人	27,283人
目標指標2②	現状値(H30)	目標値(R6)
法人設立届出数	120件	150件

■施策体系



■数値目標のグラフ



■基本目標実現への効果等

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一部セミナーやイベントを中止せざるを得なかった。一方で、コロナ禍におけるテレワーク等の必要性が高まったことにより、世の中に多様な働き方が急速に浸透した。

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けては、複数の関係課で連携し、ライフスタイルの選択肢を増やすセミナー「スタイリングウィーク」をオンライン開催も含めて実施した。これにより、多様な働き方や暮らし方を幅広い世代に普及啓発することができた。

起業支援においては、令和2年度から新たに起業希望者を伴走型で支援する「いこま経営塾」をスタートした。これにより、新たなビジネスの立ち上げを後押しするだけでなく、起業希望者同士や起業希望者とその支援者をマッチングすることができた。

また、目標指標については、経済センサス(基礎調査)の調査方法が変わったことにより、市内従業者数を把握することができなかった。市課税課で把握している法人設立届出件数については、R1年度から微減したものの132件となり目標を達成することができた。

コロナ禍におけるテレワーク需要の高まりなど、働き方に関する加速度的な変化を含めて、目指す姿の実現に向けて大きく前進したものとする。

小分野	2-1-1	働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現( I )
-----	-------	--------------------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発 仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	男女共同参画プラザ
■令和2年度取組状況(D)		
ワーク・ライフ・バランスの普及啓発を図るため、多様な働き方や暮らし方を推進し、ライフスタイルの選択肢を増やすセミナー「スタイリングウィーク」やキャリア形成セミナー等を開催した。また、イクボス専用サイト「イクボスIKOMA」にて、イクボス及びワーク・ライフ・バランスについての啓発を図った。		
■成果(C)	■課題(C)	
新型コロナウイルス感染防止のため、子育てシェアや家事の効率化などのセミナー等をオンラインで開催することにより、自宅や遠方からでも参加できる形態にすることで、幅広く普及啓発を図った。	イクボス専用サイトにて、イクボス及びワーク・ライフ・バランスについて啓発に努めているものの、個別にアプローチするなど、事業者や団体の新規登録を促す必要がある。	
■R3年度の取組予定(A)		
多様な働き方や暮らし方を推進し、ライフスタイルの選択肢を増やすセミナー「スタイリングウィーク」等を企画していくとともに、イクボス宣言を行っている事業者を広く知ってもらうことで、ワーク・ライフ・バランスについて定期的に考えていただけるような機会を増やし、普及啓発に取り組む。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	テレワーク等の推進 ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組めます。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
コロナ禍においては、多くの利用者が集まるイベントやセミナー、交流会の開催は控え、安全に業務が行える環境づくりを行った。イコマドでは、4月13日～5月19日の期間にオープンスペースの閉鎖を行ったのち、営業時間の短縮制限を行いながらの再開後しばらくは利用の低迷があったものの秋から冬にかけて徐々に回復傾向となった。		
■成果(C)	■課題(C)	
連携しているシェアオフィスネットワークNewWorkは、閉鎖期間があったにもかかわらず、1月の2度目の緊急事態宣言後は利用が急増となり、1503時間の利用となった。	初利用者へイコマドを知ったきっかけについて口答アンケートをしたところ、「生駒テレワーク」「生駒コワーキング」で検索したという声が多く、まだまだPR不足だと考えられる。	
■R3年度の取組予定(A)		
R2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限努めながら、利用者数を確保する。		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1 多様な働き方に関するセミナー等開催回数(回)	①-A 男性の平日の育児家事労働時間「全くしない」人の割合(%)												
<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>35</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>35</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	35	R2実績値	35	達成状況	○	<table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>4.6</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	3.5	R3実績値	4.6	達成状況	×
R2目標値	35												
R2実績値	35												
達成状況	○												
R3目標値	3.5												
R3実績値	4.6												
達成状況	×												
	①-B 市内のイクボス宣言事業者数(社)												
	<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>55</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>57</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	55	R2実績値	57	達成状況	○						
R2目標値	55												
R2実績値	57												
達成状況	○												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
②-1 「働く」等をテーマにしたイベント開催回数(回)	②-A イコマドにおけるテレワーク利用件数(件)												
<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>123</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	123	R2実績値	0	達成状況	×	<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>304</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>1,132</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	304	R2実績値	1,132	達成状況	○
R2目標値	123												
R2実績値	0												
達成状況	×												
R2目標値	304												
R2実績値	1,132												
達成状況	○												

小分野	2-1-1	働き方をめぐる環境の変化に応じたワーク・ライフ・バランスの実現(Ⅱ)
-----	-------	------------------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③	<b>女性の活躍推進</b> 男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることができる社会を目指します。また、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。	男女共同参画プラザ 人事課
■令和2年度取組状況(D)		
【男女共同参画プラザ】 男女共同参画の大切さを知ってもらうため、男性の家事・育児参加を目的とした親子クッキングや家族防災、女性に対する暴力の啓発を目的としたパールライトアップやジェンダーを考えるオンライン座談会などのイベントを開催し、女性の活躍推進につながる取り組みを行った。 【人事課】 特定事業主行動計画の前期計画の取組みを引き続き推進・公表すると共に、前期計画の成果を元にした次の5年間の後期計画を策定した。		
■成果(C)		■課題(C)
【男女共同参画プラザ】 ジェンダー炎上等をテーマとした座談会をオンラインで開催し30代・40代を中心に42人(最大同時接続数)の参加があった。SNSで拡散されたこともあり、今まで届きにくかった年齢層の方に啓発を行うことができた。 【人事課】 女性管理職の割合: R2年度 29.0%		【男女共同参画プラザ】 市の附属機関等の女性委員の割合は、前年度より増加しているものの目標に達していない。機関によって割合の格差があるため、数値の低い機関に対しては女性委員の登用を継続的に働きかけ、ジェンダーギャップを解消する必要がある。 【人事課】 休暇等取得しやすい環境整備やキャリアデザインを設計しやすい人事制度を構築することで、女性の管理職志望者を増やしていく必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
【男女共同参画プラザ】 幅広い年齢や状況の方に参加いただけるよう、オンラインも活用するなどの工夫をしながら講座やイベントを実施し、女性活躍に向けた取り組みを充実させる。また、市の附属機関等へ女性委員の参加を促進するため、割合が低い機関等への積極的な啓発を図る。 【人事課】 後期計画で設定した成果指標の達成に向けて、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいく。		

■具体的な取組(P)		■担当課
④	<b>就業意欲がある人の支援</b> 市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組み、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
・合同就職説明会については、コロナ禍のため上半期は中止になったが、下半期は高齢者向け面接会と、通常版面接会の2回を実施した。 ・コロナ禍により窓口や電話での就労者からの相談は増えており、国や県などの支援策を紹介した。また、企業側からの相談については市役所内に専門家相談窓口(サポートデスク)を設け支援を行った。		
■成果(C)		■課題(C)
・高齢者面接会は、21名参加し、5名の採用があった。 ・通常版面接会は、28名参加し、5名の採用があった。		・面接会の参加者数が減少し、それに伴い採用者数も減少している。 ・ふるさとハローワークの相談者数の増加、窓口での就労相談件数の増加から、コロナにより無職となった方、採用を取り消された方が一定数存在し、就業希望者が増えているように感じる。そのため、この層の方に合同就職面接会等に参加してもらえるよう告知が必要。
■R3年度の取組予定(A)		
・面接会の参加者数が減少傾向にあるので、参加者を増加させられるよう告知を重点的に実施する。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1		5	1		
・ワークライフバランスについて、まずは生駒市の現状がどのような状態であるのかを把握する必要がある。他自治体と比較して、生駒市における課題を明示して、優先順位をつけて具体的な施策を検討されたい。 ・女性の活躍促進のためには、経営者と意見交換し、官民一体となって女性の就業機会を創出する必要がある。						
【評価基準】 A: 高い成果が得られた B: 予定どおりの成果が得られた C: 一定の成果が得られた D: やや不十分な成果にとどまった E: 成果は不十分もしくは見られなかった						

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
③-1 男女共同参画啓発講座等の開催回数(回)	③-A 女性活躍推進に関する市民実感度(点)
R2目標値	R2目標値
120	57.0
R2実績値	R2実績値
113	52.7
達成状況	達成状況
×	×
③-2 市の附属機関等の女性委員の割合(%)	③-B 市調査による女性の就業の割合(%)
R2目標値	R2目標値
36.0	45.8
R2実績値	R2実績値
32.4	43.5
達成状況	達成状況
×	×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
④-1 合同就職面接会の参加企業数(社)	④-A 合同就職面接会での新規雇用者数(人)
R2目標値	R2目標値
24	24
R2実績値	R2実績値
14	10
達成状況	達成状況
×	×
④-2 ふるさとハローワークへの相談件数(件)	
R2目標値	
6,350	
R2実績値	
8,004	
達成状況	
○	

■評価結果
C: 一定の成果が得られた

小分野	2-2-1	産業の活性化
-----	-------	--------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 企業立地の推進	市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある作業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は、1件(学研生駒テクノエリア)の認定を行った。</li> <li>その他、前年度までの認定分の補助金支払等を実施した。</li> <li>コロナ禍のなか対面式で開催された国際フロンティアメッセに出展し、市内企業・本市のPRを実施した。</li> <li>新型コロナウイルス対策の事業者支援事業により、リモートワーク促進のためにサテライトオフィスの誘致を行った</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は、1件(学研生駒テクノエリア)の認定を行い、累計目標値の22件を達成した。</li> <li>サテライトオフィスの誘致により、大阪の企業2社が本市にサテライトオフィスを開設した。これにより新たに4名が本市内で勤務するようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学研生駒テクノエリアにおいては誘致可能な整備された土地に限りがあるため、近隣不動産事業者等と連携し空き工場の把握が必要。</li> <li>10年先を見据えたさらなる企業誘致のために、学研高山地区第2工区の整備に向けて、奈良県や庁内関係部署と連携を密にする必要がある。</li> </ul>	
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学研生駒テクノエリアにおいては誘致可能な整備された土地に限りがあるため、近隣不動産事業者等と連携し空き工場の把握を実施。</li> <li>10年先を見据えたさらなる企業誘致のために、学研高山地区第2工区の整備に向けて、奈良県や庁内関係部署と連携し情報共有を実施。</li> </ul>		

■具体的な取組(P)		■担当課
② 既存企業への支援	これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業販路拡大出展事業費補助金交付事業を実施。</li> <li>合同就職面接会については、コロナ禍のため上半期は中止になったが、下半期は高齢者向け面接会と、通常版面接会の2回を実施した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業販路拡大出展事業費補助金を2件の事業者に対して認定し支援を実施した結果、商談件数の増加、会社・商品のイメージアップ、市内外での知名度が向上したという意見があった。</li> <li>高齢者面接会は、21名参加し、5名の採用があった。</li> <li>通常版面接会は、28名参加し、5名の採用があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接会の参加者数が減少し、それに伴い採用者数も減少している。</li> <li>4社の市内企業を訪問した際、全てで人材不足に悩んでいるという意見があったため、市内企業の多くが人材に悩んでいることが考えられる。人材不足は経営の衰退にもつながる課題であるため、対策が必要であると考える。</li> </ul>	
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>面接会の参加者数が減少傾向にあるので、参加者を増加させられるよう告知を重点的に実施。</li> </ul>		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
		3	4			
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致については、どんな業種でもいい訳ではなく、市民の雇用を生み出す業種や生駒市のPRにつながる業種をターゲットにするなど、戦略的に取り組まれない。</li> <li>生駒テクノエリアの課題では社員の高齢化が進んでいるが若い人材の獲得に苦戦していると聞く。このような課題の解決につながる施策を期待する。</li> <li>特に若い世代の労働者にとって魅力のある環境づくりを市と商工会議所が連携して支援に取り組まれない。</li> </ul>						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)			
アウトプット		アウトカム	
①-1 展示会での誘致PR件数(件)		①-A 企業立地件数(件)	
R2目標値		R2目標値	
6		22	
R2実績値		R2実績値	
1		22	
達成状況		達成状況	
×		○	
①-B 立地企業の新規雇用者数(人)		①-B 立地企業の新規雇用者数(人)	
R2目標値		R2目標値	
84		56	
R2実績値		R2実績値	
84		84	
達成状況		達成状況	
○		○	

■KPI(C)			
アウトプット		アウトカム	
②-1 展示会出展支援件数(件)		②-A 合同就職面接会での新規雇用者数(人)【再掲】	
R2目標値		R2目標値	
18		24	
R2実績値		R2実績値	
22		10	
達成状況		達成状況	
○		×	

■評価結果
C : 一定の成果が得られた

小分野	2-2-2	起業支援
-----	-------	------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<b>起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成</b> 起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。また、早い段階から起業など多様な働き方に対する意識を醸成するため、様々なスキルを有する市民や団体、企業と協働し、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナー等を開催します。	商工観光課 生涯学習課
■令和2年度取組状況(D)		
【商工観光課】 創業支援事業計画に基づく「いこま経営塾」を実施し、交流会・伴走支援を通して起業希望者・起業家間のマッチング機会を創出した。 【生涯学習課】 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、生涯学習施設や学校における臨時休館や休校の影響もあり、子どもたち向けのセミナーの開催は困難な状況であった。感染状況が一定落ち着いた11月に奈良高専との連携により科学をテーマとした「いこまこチャレンジ教室」をできる限りの感染防止対策を講じて開催した。		
■成果(C)		■課題(C)
【商工観光課】 ・参加者がイベントをきっかけに、イベント外で「朝活」という活動を実施し始めた。そこで、事業内容の情報共有を行っている。・伴走支援者と専門家がイベント終了後も事業実現に向けて関わりを継続している。 【生涯学習課】 「いこまこチャレンジ教室」の開催は1回だったが、定員(18名)を大きく超える参加申込があり、当日は15人の参加を得た。		【商工観光課】 ・伴走支援実施期間が3ヶ月と少し短かった。 ・コロナの影響もあり、交流時間が少なくなった。 【生涯学習課】 新型コロナウイルスの影響が引き続き見込まれる中、感染リスクを回避しながら子どもたちへの学びの機会の提供を図るため、セミナー等の実施方法の検討や工夫の必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
【商工観光課】 令和2年度の取組をブラッシュアップして、いこま経営塾を実施する。 【生涯学習課】 新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、市民や団体・企業等との協働により「いこまこチャレンジ教室」を開催するなど、子どもたちの「生き抜く力」の育成や学びの機会を提供する。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<b>起業家を育成支援する体制づくり及び情報発信</b> 起業希望者や起業間もない人を支援するため、ベルテラスいこまのイベントや起業支援スペースから芽生えた起業意欲のある方に対し、店舗経営のノウハウの継承・指導やチャレンジする機会を設けるなど包括的な起業家の育成支援を実施します。また、そうした支援を効果的に行うための情報発信や起業支援セミナーの開催などを行います。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
創業支援事業計画に基づく「いこま経営塾」を実施。第一ステップでは、経営や財務等のセミナーを4回、交流会を2回、事業計画プレゼン審査会を1回実施し、ビジネス立ち上げに向けての後押しや、起業希望者同士の交流する場の提供を行った。また、第二ステップでは、金融機関やデザイナー等の民間事業者と連携し、起業希望者の事業実現への支援を実施した。 ・相談サポートセンターを設け、コロナ対策だけでなく、起業希望者の支援も合わせて実施した。		
■成果(C)		■課題(C)
・コロナ禍のなか募集定員の30名を越える応募があり、28名の参加があった。 ・伴走支援を実施した参加者5人のうち4人が実際に新事業を開始した。 ・相談サポートセンターの利用者数が444人だった。		・第二ステップの伴走支援実施期間が3ヶ月と少し短かった。 ・コロナ禍の影響もあり、交流時間が少なくなった。
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
・令和2年度の取組をブラッシュアップして、いこま経営塾を実施する。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント ・後継者不在により廃業を考えている事業者と起業希望者をマッチングさせ事業承継を支援することで双方のメリットにつながる。 ・金融機関が実施している高校生ビジネスプラングランプリなどを活用し、若いうちから起業家教育を実施されたい。 ・最終アウトカムである「起業がどれだけ増えたか」を意識して取り組まれない。
		3	3	1		

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 交流会の参加者数(人) 	①-A イコマドにおけるインキュベーション、コワーキング利用件数(件) 
R2目標値	R2目標値
40	1,561
R2実績値	R2実績値
28	2,468
達成状況	達成状況
×	○
①-2 いこまこチャレンジ教室の参加人数(人) 	
R2目標値	R2実績値
90	15
達成状況	達成状況
×	×

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 起業支援セミナー開催回数(回) 	②-A 奈良県よろず支援拠点における起業に関する相談件数(件) 
R2目標値	R2目標値
6	90
R2実績値	R2実績値
7	101
達成状況	達成状況
○	○

■評価結果
<b>C : 一定の成果が得られた</b>

小分野	2-3-1	子育て分野における就労の促進
-----	-------	----------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 保育士の確保【再掲】	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	こども課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時勤務を要する職員に対して、給与加算を支出している事業者に対し、市単独の給与改善費補助金を交付し支援した。</li> <li>・潜在保育士を発掘するため、「保育園・こども園見学ツアー」(3コース各1回)、「資格をいかそう相談会」(2回)及び職場体験(インターンシップ)(2回)を実施した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与加算に対する補助金を交付し、処遇改善を行うことで、保育士の確保を図ることができた。</li> <li>・「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)の参加者から、フルタイム、パートタイムを併せ、9人を雇用することができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、一定の保育士の退職があるため、引き続き処遇改善を進めるとともに、新たな保育士の確保にも努める必要がある。</li> </ul>
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から継続して、給与改善補助金を交付する。</li> <li>・「保育園・こども園見学ツアー」、「資格をいかそう相談会」及び職場体験(インターンシップ)を実施する。</li> </ul>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1「資格をいかそう！相談会」参加者数(人)【再掲】	①-A「資格をいかそう！相談会」参加者のうち新たに雇用された保育士数(人)【再掲】												
<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>36</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>21</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	36	R2実績値	21	達成状況	×	<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>9</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>16</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	9	R2実績値	16	達成状況	○
R2目標値	36												
R2実績値	21												
達成状況	×												
R2目標値	9												
R2実績値	16												
達成状況	○												

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1	1	4	1		
<small>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</small>						

■評価結果
<b>C : 一定の成果が得られた</b>

小分野	2-3-2	介護分野における就労の促進
-----	-------	---------------

■具体的な取組(P)		■担当課
① 介護関係資格取得費の支援	市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	介護保険課
■令和2年度取組状況(D)		
介護職員初任者研修受講費用の助成事業について、市内介護事業者にリーフレットを配布して制度の利用促進を進めるとともに、新たな人材確保のため、市内公共施設等にリーフレットを設置し周知を図った。また、介護現場の魅力発信の場として、「ケアリンピックいこまオンライン」を開催。市内介護事業所で働く専門職を紹介し、若い世代への周知を図った。		
■成果(C)		■課題(C)
介護職員初任者研修受講費用の助成事業は9人の利用申請があったが、最終的に介護事業所に就業しなかった、勤務期間が短かったなどの理由により、助成できたのは5人となった。		令和3年度の介護保険制度改正により、介護現場の人材不足の課題に対しては、新規の従事者を増やすとともに、すでに介護現場で就労している無資格者の資質の向上により業務の効率化等を図る必要がある。すでに介護現場で働く人が資格を取得しやすくするために、本制度が活用できるよう、対象者の見直しが必要である。
■R3年度の取組予定(A)		
介護職員初任者研修受講費用の助成事業の利用対象者の条件を、すでに介護現場で就労している無資格者が利用できるよう見直すことにより資格取得を支援し、新たな人材確保とともに介護人材の質の向上を図る。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 介護関係資格取得を促すための広報回数(回)	①-A 介護関係資格取得支援を受けた新規就業者数(人)
R2目標値	R2目標値
3	33
R2実績値	R2実績値
3	27
達成状況	○
	×

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1		6			

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■評価結果
C : 一定の成果が得られた

小分野	2-3-3	食に関する地域産業の創出
-----	-------	--------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	プロ農業者の確保と育成 農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	農業委員会事務局 農林課
■令和2年度取組状況(D)		
新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化等に伴う農業への関心増加を背景に、農地中間管理事業の活用、県と共同での新規就農相談への対応、農業フェア等のほか農地見学会の実施を積極的に行った。また、認定新規就農者1名への農業次世代人材投資資金の交付や、農業経営改善計画の策定支援、新型コロナウイルス感染症による外食需要の減少により市場価格が低落する等の影響を受けた農業者への高収益作物次期作支援交付金について申請のとりまとめ等を行い、新規就農者及び既存農業者への支援に取り組んだ。		
■成果(C)		■課題(C)
青年新規就農者2名増加。(うち認定新規就農者1名。) 認定農業者2名増加。		遊休農地の増加等を防ぐため、引き続き新規就農を促すとともに、既存農業者の効率的な農業経営を支援することにより、農業への定着を図る必要がある。
■R3年度の取組予定(A)		
人・農地プランの実質化に伴う集落座談会等により、貸出希望農地の農地中間管理事業への登録等を推進し、担い手農業者への農地の集積を図り、効率的な農業経営を推進するとともに、新規就農者への農業次世代人材投資資金の交付や設備投資支援等により、新規就農者の増加を図る。		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	農作物の販売支援 農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小商い農業の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組む、プロ農業者だけでなく小商い農業者の販売促進につなげます。	農林課
■令和2年度取組状況(D)		
青空市場の開催のほか、自治会への移動販売を行い、地場野菜等の魅力を発信するとともに、農業を介しさらなる良好な地域コミュニティの形成・発展に取り組んだ。また、学校給食用食材の出荷者に対する価格補助による地産地消の推進や、ふるさと納税への農産物の出品を促し、生駒の農産物のブランド化を図った。		
■成果(C)		■課題(C)
移動販売2自治会增加。 ふるさと納税への農産物の出品者数1名増加。		販売機会の増加や生駒の農産物のブランド化を一層推進することにより、小商い農業及びプロ農業者の収益性向上を図る必要がある。
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
小商い農業者の販売促進につながる農業者らによる朝市開催を支援するとともに、青空市場や移動販売を他のイベント等と開催することにより、幅広い層への地場野菜等のPRと販売促進を図る。また、生駒の農業者や農産物の情報発信や、加工品販売等の促進などに取り組む。		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
		5	1	1		
・生産するだけでなく流通させブランド化できれば産業として成果が出るのではない。 ・「食に関する地域産業の創出」として6次産業化の支援に取り組まれない。そのためレストランや食堂などの飲食店の活性化やネットワーク化が必要であるとする。日本酒の蔵元と連携して、蔵開きや食と日本酒等をコラボさせたイベントを行うことも一つの方法だと考える。						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 農地見学会参加者数(人)	①-A 青年新規就農者数(人)
R2目標値	R2目標値
6	15
R2実績値	R2実績値
3	16
達成状況	達成状況
×	○

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
②-1 移動販売自治会数(件)	②-A 地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数(件)
R2目標値	R2目標値
7	15
R2実績値	R2実績値
7	15
達成状況	達成状況
○	○

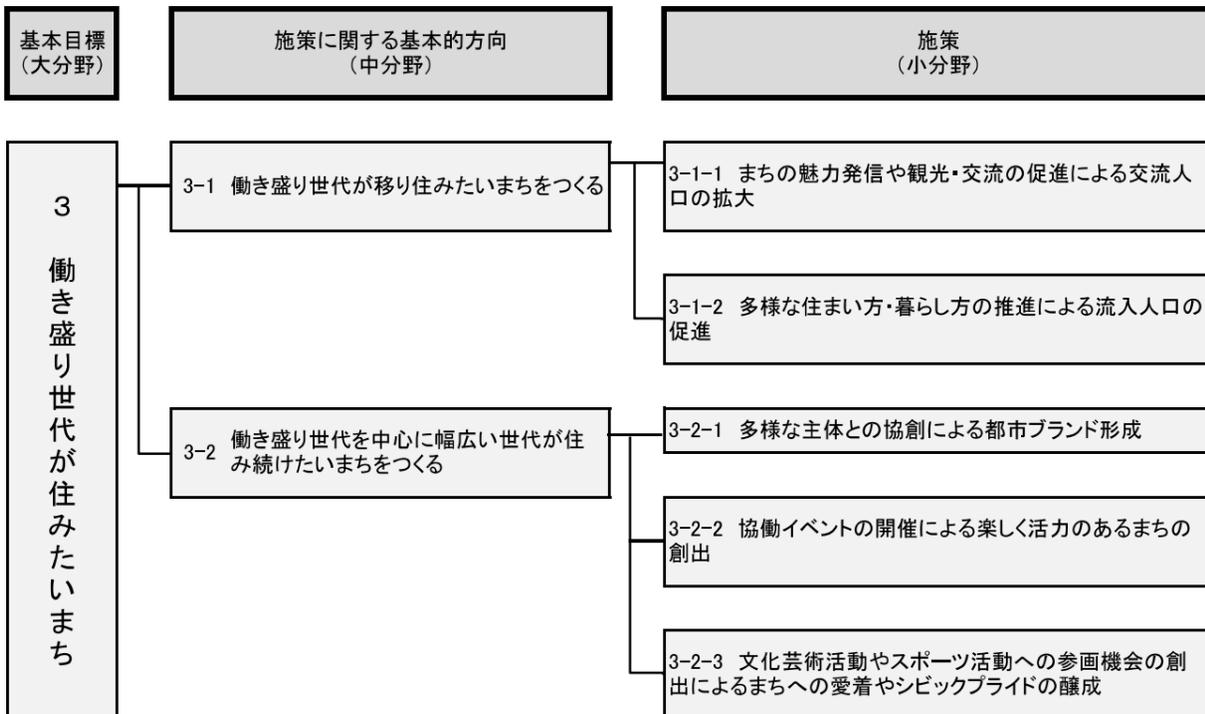
■評価結果
<b>B：予定どおりの成果が得られた</b>

基本目標	3	働き盛り世代が住みたいまち
------	---	---------------

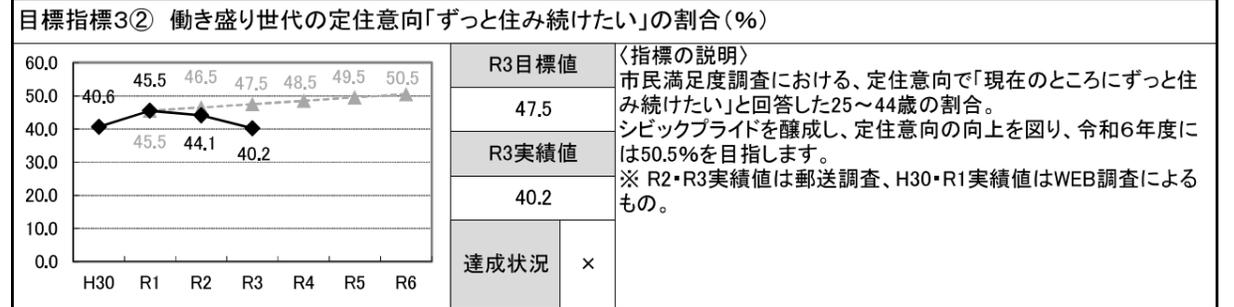
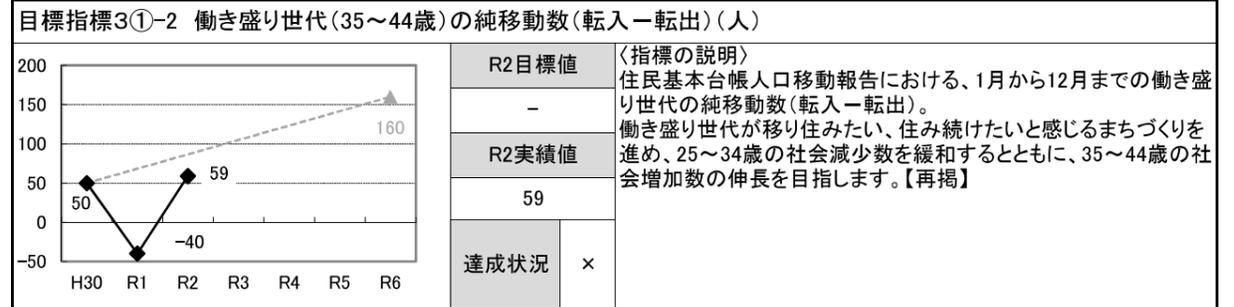
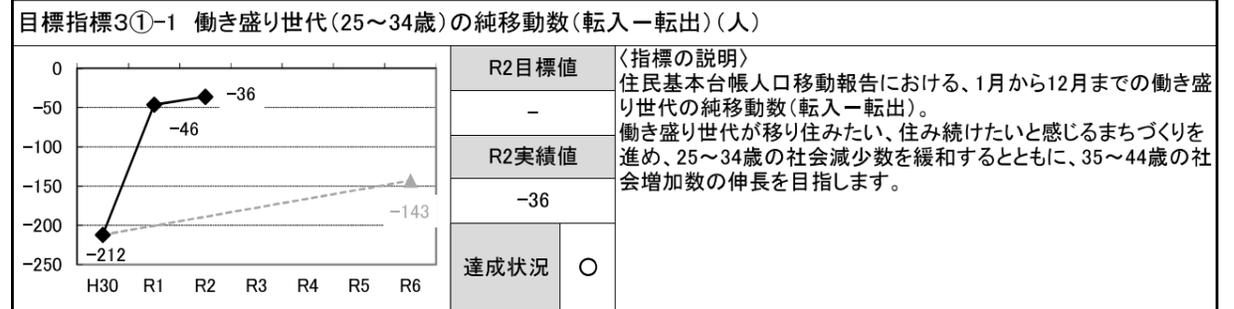
■目指す姿  
 多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。

■数値目標		
目標指標3①	現状値(H30)	目標値(R6)
働き盛り世代(25～34歳)の純移動数(転入－転出)	-212人	-143人
働き盛り世代(35～44歳)の純移動数(転入－転出)	+50人	+160人
目標指標3②	現状値(R1)	目標値(R6)
働き盛り世代の定住意向「ずっと住みたい」の割合(%)	45.5%	50.5%

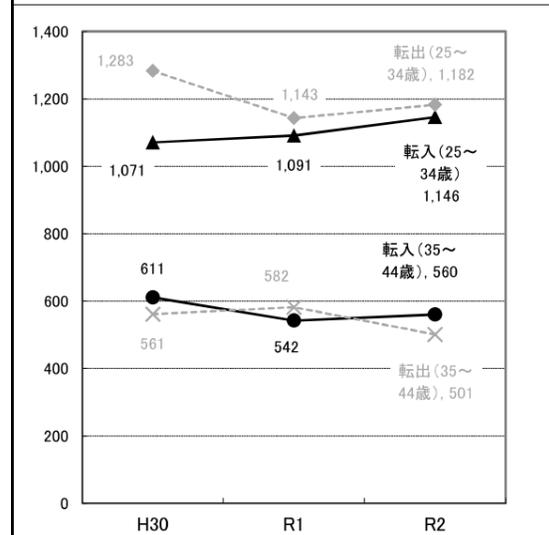
■施策体系



■数値目標のグラフ



(参考)働き盛り世代の転入転出数(人)



■基本目標実現への効果等

転入促進については、「IKOMA SUN FESTA」をはじめ、数々のイベントが開催できず、市外にアピールできない難しい一年となった。特に35～44歳の転入は伸び悩んでいる。一方で、コロナ禍において、東京圏は転出超過に転じるなど、全国的に地方移住のニーズが高まっている。この動きをチャンスととらえ、転入者の獲得に向けて、市外にアピールしていくことが重要だと考える。

定住促進についてはH30と比較して、働き盛り世代の転出数が大幅に減少しており、第1期総合戦略の効果が表れてきていると考えられる。一方で、「働き盛り世代の定住意向「ずっと住みたい」の割合」は減少しており、今後転出が増加する可能性がある。今後、市民アンケート調査をもとに、定住意向と相関関係にある要素を分析するなど、より効果的な定住促進施策を行えるよう検討する必要がある。

小分野	3-1-1	まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大
-----	-------	----------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<p><b>いこまの魅力創造事業</b></p> <p>市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティプロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブックの運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。また、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。</p>	<p>広報広聴課 商工観光課</p>
■令和2年度取組状況(D)		
<p>ポータルサイト「good cycle ikoma」を核に、公式SNS・広告出稿等を通じ、行政情報にとどまらない地域情報を地域内外に発信した。主な取組として、ポータルサイトは市の概要をまとめたページをリニューアルし、新規で67件の記事を更新した。多様な暮らし方ができることを伝えるタブロイドを8,000部発行、市内外約230カ所配布。開庁日は、公式Facebookで毎日情報を発信した。また、初めての試みとして、ポータルサイトの閲覧者と閲覧者でない人をグループに分けてアンケートを実施。閲覧者グループは総じて、生駒への関心や興味が高いことがわかった。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイト「good cycle ikoma」の月平均PV9,000以上(前年度比約3割増加)</li> <li>公式FBのページフォロワー数…6,021件(前年度比387件増加)</li> <li>公式インスタグラムのフォロワー数…1,135件(前年度比749件増加)</li> </ul>	<p>IKOMA SUN FESTAは新型コロナウイルスの感染拡大によって中止となった。情報発信だけでなく、市外の人に暮らす魅力を体感する場として今後どのように変化させていくかが課題。SNSトレンドの変化が著しく、Facebookのいいね数が伸び悩んでいる。</p>	
■R3年度の取組予定(A)		
<p>ポータルサイト「good cycle ikoma」のページ改修により、よりわかりやすい発信を行うとともに、Googleアナリティクス等を利用したアクセス分析やアンケート実施などにより当該サイトを効果的に運用する。また、将来都市像の実現に寄与する施策や民間の活動については、引き続ききめ細やかに情報収集し、媒体特性に応じた情報発信につとめる。</p>		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<p><b>観光・交流の促進</b></p> <p>観光関連事業者等と連携して、民間のノウハウや知識を活用しながら、観光客受け入れのために必要なサインの整備や観光客向け体験型コンテンツの企画を行うとともに、SNS等を活用して国内外に観光情報を発信して魅力のPR等に努めます。事業者等がこれらの活動を主体的に取り組むことができるよう支援することにより、市内を訪れる観光客数や交流人口の増加を目指します。</p>	<p>観光振興室</p>
■令和2年度取組状況(D)		
<p>感染症の影響収束後の需要回復期を見据え、インバウンドのみならずマイクロツーリズムにも対応した体験型コンテンツの開発と、昨年度作成したコンテンツの磨き上げを行い(合計14コース)、ファムトリップを実施、パンフレットの作成やサイトでの販売を一部開始した。また、看板・メニュー等の多言語化やwi-fi整備等、外国人観光客の受入環境を整備する事業者に向けた補助(10件)を行った。さらに、コロナ禍における事業者の支援と地元消費喚起のために実施した宿泊補助およびプレミアム付きチケット事業においては、近隣客や市民が生駒市の魅力を再発見できるよう、マップやスタンプラリーを付して市内周遊を促した。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p>上記外国人観光客受入環境整備促進補助金は、事業者から予定金額を上回る申請があった。また、宿泊補助・プレミアム付きチケット事業のいずれも、利用者から予定数を超える申し込みがあり(宿泊補助は感染症の影響で、後に一部キャンセルあり)、課題であった「直接的な事業者の収益増と市の経済振興」の一助になったと言える。</p>	<p>感染症の影響を受け、②-1観光関連セミナー等参加者数は、減少しているが、観光関連事業者においては、事業継続に不安を抱えている事業者もあるなど深刻な状況にあり、会合形式によらない支援と連携が引き続き必要。また、②-A観光地の来訪者数についても、需要回復期に向けた対策を準備する必要がある。</p>	
■成果・課題を踏まえたR3年度の取組予定(A)		
<p>宿泊事業者向け、感染症対策及び施設運営に関するサポートを行うことで、コロナ禍における新たな旅のスタイルに即した運営を促進させ、キャッシュバック制度による宿泊施設を起点とした消費喚起を通じ観光関連事業者全般を支援する。また、生駒山の魅力を市外に発信し誘客促進のためにワーケーションの取り組みを推進するとともに、2年度に引き続き、感染症の状況を踏まえながら、ターゲットを外国人に限定しないマイクロツーリズム対応型の体験コンテンツのさらなる開発及びツールの充実などによる販売促進の本格化に取り組む。</p>		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
		1	2	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関するイベント等、新たな観光資源の活用を期待する。</li> <li>公式SNSによって、市外にどれだけ情報を発信できているのかを意識して取り組まれない。</li> <li>セミナー参加者数や来訪客数の減少などコロナ禍でやむを得ない面がある。</li> </ul>
<p>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</p>						

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
<p>①-1 生駒の魅力に関する情報接触件数(件)</p> <p>R2目標値: 70,000 R2実績値: 116,685 達成状況: ○</p>	<p>①-A 市公式フェイスブックの「ページいいね」件数(件)</p> <p>R2目標値: 5,700 R2実績値: 5,547 達成状況: ×</p>
<p>①-B IKOMA SUN FESTAに会場して生駒市の印象が良くなった人の割合(%)</p> <p>R2目標値: 75 R2実績値: - 達成状況: -</p>	

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
<p>②-1 観光関連セミナー等参加者数(人)</p> <p>R2目標値: 63 R2実績値: 11 達成状況: ×</p>	<p>②-A 観光地の来訪者数(千人)</p> <p>R2目標値: 1,557 R2実績値: 1,162 達成状況: ×</p>

■評価結果
<p><b>C : 一定の成果が得られた</b></p>

小分野	3-1-2	多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進
-----	-------	---------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<b>空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進</b> 多様な住まい方・暮らし方への受容と理解を図りながら、空き家の流通を促進し、良好な中古住宅の活用を推進するため、空き家流通施策やリノベーション事例の発信を広く効果的に展開します。また、事業者と一体となって、近居・住み替えニーズの掘り起こしと魅力的な賃貸住宅の供給策を検討するなど、本市にふさわしい土地利用のあり方を考えます。	住宅政策室 都市計画課
■令和2年度取組状況(D)		
【住宅政策室、都市計画課】 空き家の処分等に悩みを抱える所有者向け支援と空き家活用を検討する希望者向け支援に並行して取り組んだ。前者では、3回の空き家セミナー、9回の相談会を開催し、空き家に関する正しい知識の提供や処分に向けた相談機会を多く設けた。また、必要に応じて、空き家流通促進プラットフォームを紹介し、売却や賃貸に向けた支援を行った。後者では、グッドサイクルいこまでの中古住宅のリノベーション事例の発信(2事例)、リノベーション実践者によるトークセッションの開催(1回)、空き家ごとに活用方法を提案するセミナー(1回)の開催等を行った。その他、プレスリリース等でも積極的な広報を行い、多くのメディアに掲載された。		
■成果(C)		■課題(C)
【住宅政策室、都市計画課】 ・市内中古住宅の流通件数約350件(2019年)※2012-2016年は平均約200件 ・平成28年度時点の市内空き家の内、4年で約250棟が空き家状態の解消 ・空き家セミナー参加者19人、相談会参加25組 ・プラットフォーム取扱22件、成約9件 ・トークセッション、マッチングセミナー参加者数66人		【住宅政策室、都市計画課】 ・プラットフォーム取扱物件情報を希望者に紹介できる仕組みづくり ・平成28年以降、新たに発生した空き家の把握・調査

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<b>移住支援金の交付</b> 県が中心となり国の認定を受けた地域再生計画に基づく施策として、人口の東京一極集中を是正し、地方へのUJターンを促すため、東京23区在住者又は23区への通勤者が本市に移住し、県内の対象法人に就業、又は起業した場合、移住支援金を交付します。	商工観光課
■令和2年度取組状況(D)		
マッチングサイトに掲載される対象法人数を増加させるため、生駒商工会議所と連携し、市内事業者への案内を実施。また、移住支援金の対象者要件が拡充されるにあたっての要綱作成案の検討も実施した。 そのほかにも昨年度から移住を検討してくれている方と実際にお会いし、移住に向けての打合せを行った。		
■成果(C)		■課題(C)
・対象法人募集の案内を実施した結果、対象法人が2件追加され合計8件となった。 ・打合せを通して要望の聞き取りを行い、空き家を探しているということがわかったので、関係課に繋いだ。		・移住希望者からの問合せが少ない。 ・マッチングサイトへの登録事業者数が少ない。

■具体的な取組(P)		■担当課
③	<b>既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進</b> 耐震改修やリフォーム、バリアフリー化に関する相談窓口等を設置するとともに、耐震化に対する支援を行うことにより、既存住宅の流通を促進します。	住宅政策室 建築課
■令和2年度取組状況(D)		
【住宅政策室】 住宅相談：耐震やリフォーム等について、月1回4枠の相談できる体制を整えた。 【建築課】 市内住宅の耐震化率向上を推進するため、耐震診断及び耐震改修、解体工事の補助を実施した。広報紙、市HP等により市民へ情報提供を行った。		
■成果(C)		■課題(C)
【住宅政策室】住宅相談：7回開催、参加12組 【建築課】コロナ禍の影響により、耐震診断は目標値に達成していないが、問い合わせ等は多く、依然市民の関心があり、目標水準を上回ったものもある。これらの事業により、流入してくる市民に耐震性を確保した良質な住宅を提供でき、また耐震性のない既存住宅は早期に解体され、転入者が新築するケースも多く見られることから、新たな流入人口を生み出しているといえる。		【建築課】 耐震化の補助制度の認知はある程度されており、一定程度取組みはできているが、コロナの影響により耐震改修を希望される方が少なかった。これらの補助制度について、市内外の多くの方に知っていただけるようさらに啓発が必要である。

■総合戦略会議からの令和2年度取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
		4	3			・空き家の流通促進による人口流入は喜ばしいことだが、移住支援金の活用もPRされたい。
【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった						

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
①-1 空き家流通プラットフォーム取扱件数(件) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>85</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>81</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	85	R2実績値	81	達成状況	×	①-A 流通促進奨励金及びプラットフォーム成約による市外から空き家への転入世帯数(件) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>22</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>30</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	22	R2実績値	30	達成状況	○
R2目標値	85												
R2実績値	81												
達成状況	×												
R2目標値	22												
R2実績値	30												
達成状況	○												

■R3年度の取組予定(A)
【住宅政策室、都市計画課】 これまでの取組に加え、プラットフォーム取扱物件情報の公開、平成28年度空き家等実態調査にて把握した空き家1444棟の追跡調査、平成28年以降に新たに発生した空き家の調査などを行う。

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
②-1 マッチングサイトに新たに掲載された求人数(件) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>4</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	4	R2実績値	8	達成状況	○	②-A 移住者数(人) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>2</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	2	R2実績値	0	達成状況	×
R2目標値	4												
R2実績値	8												
達成状況	○												
R2目標値	2												
R2実績値	0												
達成状況	×												

■R3年度の取組予定(A)
対象者要件の拡充に伴う要綱の改正。 対象法人数の増加が移住支援金の活用のしやすさに直結するため、今年度も対象法人募集の案内を実施する

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
③-1 既存住宅耐震診断補助事業利用件数(件) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>660</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>656</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	660	R2実績値	656	達成状況	×	③-A 改修補助等により耐震化した住宅の件数(件) <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>311</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>330</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	311	R2実績値	330	達成状況	○
R2目標値	660												
R2実績値	656												
達成状況	×												
R2目標値	311												
R2実績値	330												
達成状況	○												

■R3年度の取組予定(A)
【住宅政策室】月1回の住宅相談を継続する。 【建築課】コロナ禍の中であるが、災害に強い安全な住宅環境の確保を目指すために、リーフレットの配布や個別相談も検討し、市民の関心をさらに高めるようにします。また住み手がなくなった住宅の所有者に働きかけ、早期の流通を促します。

■評価結果
<b>B : 予定どおりの成果が得られた</b>

小分野	3-2-1	多様な主体との協創による都市ブランド形成(Ⅰ)
-----	-------	-------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<p><b>いこまの魅力創造事業</b></p> <p>市民PRチーム「いこま宣伝部」やシティプロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体験イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らす喜びを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくり、また、新しい暮らし方を人々や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思う人の増加を目指します。</p>	<p>広報広聴課 商工観光課 市民活動推進センター</p>
■令和2年度取組状況(D)		
<p>【広報広聴課】 いこま宣伝部5・6期生の運営やローカルフォトに関する講座の実施により、地域の魅力を発掘・発信する人を育成した。 ポータルサイト「good cycle ikoma」は、住宅政策課との連携により、市内で多様な暮らし方・働き方の実践者を紹介した。 全庁的なデザイン向上のため、庁内向け事業相談会(20事業)と研修会(3回)を実施した他、ライフスタイルの変化に対応した施策を担当する6課が連携したスタイリングウィークを実施した。 【市民活動推進センター】 今後の50年のまちづくりを見据え、総合計画にも掲げている将来都市像である「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現に向け、市民が主体のまちづくりを進めるために、多様な市民がフラットにつながる市民創発の場が必要となる。その創発の場において、参加者が自ら考えたアイデアを具体的なプロジェクトにまで発展させ、実現化に向けた支援を行うことで、今後の50年の市民主体のまちづくりの起点の一つとする事を目的とし、生駒に関わりのある学生22人によるミライを回すワークショップと、生駒市内の事業者や学生、個人事業主等を集めてこれからの場作りに必要なアイデアワークショップを開催した。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p>【広報広聴課】 いこま宣伝部5・6期生の運営…24名参加(コロナ禍におけるテイクアウト情報の発信、フォトツアーの開催等宣伝部企画の創出)、ローカルフォト講座…18名参加、事業相談会や研修会の参加者が中心となったオンライン番組いこまテレビの実施…ライブ配信視聴数1,452回(11所属参加) 【市民活動推進センター】 学生によるミライを回すワークショップでは、これからの生駒市を作る世代ならではの目標で、生駒市の長所の再確認と、その長所をさらに発展させるための方法や自分たちができることを考えた。場作りワークショップでは、多様な主体が交じり合い、助け合うプラットフォームのあるべき姿についての意見交換ができた。</p>		<p>【広報広聴課】 将来都市像の実現に向けた事業(都市ブランド形成に寄与する事業)を創出する必要性が庁内で十分に認識されていると言いがたい。 【市民活動推進センター】 新型コロナウイルス感染拡大と、その防止の観点から事業実施時期が下半期にずれ込むとともに、大々的な周知をすることができなかった。</p>
■R3年度の取組予定(A)		
<p>【広報広聴課】 引き続き、IKOMA SUN FESTA、いこま宣伝部やポータルサイトの運営、スタイリングウィークのコーディネートを実施。多様な人との協創でイメージ形成につとめるだけでなく、人と人の関係性が育まれる場をつくる。 事業相談会や研修会への参加を促し、将来都市像の実現をより自分事として考える職員を増やし、都市ブランド形成に向けた事業創出の素地をつくる。 【市民活動推進センター】 令和2年度のワークショップ結果を踏まえ、これからの生駒市を作る20代の市民等を中心に、生駒の未来を回すためのプロジェクトを創出するための連続ワークショップを行う。そして、ワークショップで生まれたプロジェクトを実装前後の伴走支援を行う。また、並行して、多様な主体との協創を促進するためのプラットフォームの場作りを継続的に行う。</p>		

■具体的な取組(P)		■担当課
②	<p><b>地域特性に応じたまちづくり(ミライ会議)</b></p> <p>暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場(ミライ会議)をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指す。</p>	<p>都市計画課 住宅政策室 市民活動推進課</p>
■令和2年度取組状況(D)		
<p>【都市計画課、住宅政策室】 あすか野地区において、住民主体で進める取組の企画や広報等の伴走支援を行った。(萩の台地区はコロナ禍の影響で開催できず) 地域特性に応じたきめ細やかなまちづくりを推進してきたため、地域が主体となった地域をよりよくするための活動「地域まちづくり」の考え方をミライ会議で得た知見も踏まえ、都市づくりの具体的な指針となる都市計画マスタープラン(案)(令和3年6月策定予定)に盛り込んだ。 地域課題の多様化・複雑化が一層進むなかで、地域住民による地域主体のまちづくりを多分野が連携しながら伴走支援していくため、全庁横断的な推進体制の構築検討を進めた。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p>【都市計画課、住宅政策室】 小学校の放課後教室18回、商店街マルシェ1回を住民主体で開催するなど、地域主体のまちづくりが進んだ。(あすか野地区) 「地域まちづくり」の考え方のほか、まちづくりに関する市民・事業者・行政の役割など、「公民連携による地域主体のまちづくりの推進の基本的な考え方」を都市計画マスタープラン(案)に盛り込むことで推進方法を具体的に・明確にし、地域主体のまちづくりを進めていく素地を固めた。</p>		<p>【都市計画課、住宅政策室】 同時により多くの地域での取組みを進める方法の検討が必要。 次期都市マスに位置付けた「公民連携による地域まちづくりの推進」をまちづくりに関する関係者と共有を図ることが必要。 地域課題の解決に繋がる多様な活動を支援できる、全庁横断的な推進体制の構築が必要。</p>
■R3年度の取組予定(A)		
<p>【都市計画課、住宅政策室】 過年度に実施した地区において、伴走支援を継続する。 まちづくりに関する関係者や地域住民と「公民連携による地域まちづくりの推進」を共有するため、シンポジウムの開催や地域住民との意見交換の場を設ける。 最も身近な地域の単位である自治会エリアにおいて暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来像を共有し、地域の課題や資源を踏まえて今後も楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、その実現を目指すための対話の場をつくり、取組の実施に向けた具体的な計画づくりを支援することで、地域住民による地域主体のまちづくりを目指す。 【市民活動推進課】 最も身近な地域の単位である自治会エリアにおいて暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来像を共有し、地域の課題や資源を踏まえて今後も楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、その実現を目指すための対話の場をつくり、取組の実施に向けた具体的な計画づくりを支援することで、地域住民による地域主体のまちづくりを目指す。</p>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 地域魅力の創造・発信者育成事業参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>101</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>108</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	101	R2実績値	108	達成状況	○	<p>①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている人の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>56.8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	62.0	R3実績値	56.8	達成状況	×
R2目標値	101												
R2実績値	108												
達成状況	○												
R3目標値	62.0												
R3実績値	56.8												
達成状況	×												
<p>①-2 都市ブランド構築のための庁内事業連携・支援件数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>12</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>14</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	12	R2実績値	14	達成状況	○	<p>①-B 推奨意欲を持つ人の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>64.5</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>60.8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	64.5	R3実績値	60.8	達成状況	×
R2目標値	12												
R2実績値	14												
達成状況	○												
R3目標値	64.5												
R3実績値	60.8												
達成状況	×												

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>②-1 ミライ会議の開催地域数(地域)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>3</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>2</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	3	R2実績値	2	達成状況	×	<p>②-A ミライ会議をきっかけに始動した取組数(件)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>6</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>7</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	6	R2実績値	7	達成状況	○
R2目標値	3												
R2実績値	2												
達成状況	×												
R2目標値	6												
R2実績値	7												
達成状況	○												

小分野	3-2-1	多様な主体との協創による都市ブランド形成(Ⅱ)
-----	-------	-------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
③ ICTや民間活力を活かしたまちづくり	人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてICTやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。	ICTイノベーション推進課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒市協創対話窓口の運営を通し、民間事業者等と担当課との協創を促進した。また、公民連携に関する職員の知識や理解を深め、具体的に取り組む姿勢を醸成することを目的に、管理職向け「公民連携推進研修」を開催した。</li> <li>データ活用推進に対する更なる理解の醸成や各所管課における実務の中でのデータ整備や活用促進のため、「データ活用研修」を実施した。また、生駒市オープンデータポータルサイトで保有データのオープン化を推進するとともに、オープンデータの意義について学びシビックプライドの醸成を図る市民向けオープンデータ活用促進イベント「いこまの写真deぶら散歩」を実施した。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒市協創対話窓口への提案8件のうち4件が事業化</li> <li>※「協創ワークショップ」(KPI③-1)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止</li> <li>「いこまの写真deぶら散歩」を通して、277ユーザが撮影した生駒の写真912枚をオープンデータとして公開し、アフターイベント(オンライン)に41名参加</li> <li>令和2年度に31件のデータセットを新たにデータセットとして公開</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者等との協創について、より質のいいアウトカムにつなげるためには、市が主体的に考えられる課題に対する協創に主眼を置く必要がある。</li> <li>ICTやデータの活用推進を含む「行政のデジタル化」を推進し、感染症拡大を含む社会情勢の変化に対応することが、これまで以上に求められている。</li> </ul>
■R3年度の取組予定(A)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒市協創対話窓口の運営を通して協創に対する支援を引き続き行うとともに、さらなる協創の促進に向けて、「協創ワークショップ」や職員向け「協創推進研修」など、庁内の課題発掘や民間事業者等に向けた情報発信を行う。</li> <li>引き続き行政データのオープンデータ化と市民等によるデータ活用を促進するとともに、自治体DXに向け、職場環境と業務プロセスの改善を通してより付加価値の高い行政サービスを実現するため、サービスデザイン思考とデータ活用による業務改善支援を実施する。</li> </ul>		

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
③-1 協創連携に向けたイベント・ワークショップ参加者数(人)	③-A 民間企業等からの相談・提案件数(件)												
<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>238</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>129</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	238	R2実績値	129	達成状況	×	<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>4</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>8</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	4	R2実績値	8	達成状況	○
R2目標値	238												
R2実績値	129												
達成状況	×												
R2目標値	4												
R2実績値	8												
達成状況	○												
③-2 オープンデータ公開件数(件)													
<table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>305</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>345</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>○</td></tr> </table>	R2目標値	305	R2実績値	345	達成状況	○							
R2目標値	305												
R2実績値	345												
達成状況	○												

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
			5	2		
<small>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</small>						

■評価結果
<b>B : 予定どおりの成果が得られた</b>

小分野	3-2-2	協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出
-----	-------	---------------------------

■具体的な取組(P)		■担当課
①	イコマニア・イベントの実施 市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニア・イベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。	市民活動推進課
■令和2年度取組状況(D)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>認定したイベントについて、「イコマニア」イベントとして、ロゴマークの使用許可、広報いこまちや市HP等への掲載などで情報発信を行い、広くイベントを周知する広報支援を行った。</li> <li>イベント主催者に対する傷害保険、賠償責任保険に加入し、スタッフや参加者の安全の確保を図った。</li> </ul>		
■成果(C)		■課題(C)
市と市民、団体との協働によるイベントを支援し、市民がまちづくりに触れ合える機会が増えたことで、市民活動の活性化と賑わいのある楽しいまちづくりへ繋がった。		新型コロナウイルス感染症の蔓延により、イベントを開催しづらい状況にある。
■R3年度の取組予定(A)		
今後もイベントの周知及び市民の参画と協働を促進し、地元「いこま」の楽しい公共・公益イベントを「イコマニア」イベントとして認定し、にぎわいのある楽しいまちづくりを進めていく。		

■KPI(C)	
アウトプット	アウトカム
①-1 イコマニア認定事業開催回数(回)	①-A 「市民参加が盛んなまち」というイメージを持つ人の割合(%)
R2目標値	R2目標値
384	6.8
R2実績値	R2実績値
162	5.4
達成状況	達成状況
×	×

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1		4	2		
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、団体向けにオンラインでのイベント開催のノウハウを伝える講座を開催してはどうか。</li> <li>コロナ禍で様々なイベントを中止せざるを得ず、参加者数の大幅な減少はやむを得ない。</li> </ul>						

【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

■評価結果
C:一定の成果が得られた

小分野	3-2-3	文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成
-----	-------	---

■具体的な取組(P)		■担当課
①	<p><b>文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出</b></p> <p>小学校のプラスバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げるため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しめるよう、地域スポーツの中心的存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。</p>	生涯学習課 スポーツ振興課
■令和2年度取組状況(D)		
<p><b>【生涯学習課】</b> 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、生涯学習施設や学校における臨時休館や休校、日常的な感染防止対策等の影響により、活動の制限や成果発表の機会の減少など、文化活動の停滞を余儀なくされた。「0歳から楽しめるファミリーコンサート」や「市民みんなで創る音楽祭」における多人数での合唱や演奏をとまなう公演は見送らざるを得なかったが、下半期にはできる限りの感染防止対策を講じたうえで事業の開催が可能となり、「市民みんなで創る音楽祭」を4公演、市民吹奏楽団事業として、「いこま吹奏楽の日」及び「いこすいフェスタ」を開催することができた。</p> <p><b>【スポーツ振興課】</b> 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、年間を通して多くのスポーツイベントを中止し、スポーツ施設の一時休館、学校体育施設開放事業の一時休止に伴い、令和2年度は市民に広くスポーツを楽しめる場を提供することが困難な状況となった。一方、体育館無料開放事業やファミリースポーツの集いなど、子どもを対象にスポーツを始めるきっかけとなる事業を実施した。また、子どもの体力向上施策として、水泳競技大会や、生駒マラソンチャンピオンシップなどの競技会を開催した。なお、総合型地域スポーツクラブの活動は、コロナ禍の影響で縮小傾向となり、会員総数は微減となった。</p>		
■成果(C)		■課題(C)
<p><b>【生涯学習課】</b> 市民文化祭の「リベラルコンサート」をはじめ、いずれの事業も感染防止対策を十分に講じたうえで開催。「市民みんなで創る音楽祭」は4公演で823人(集客率73.5%)の集客を得るとともに、小・中学校へのアウトリーチを実施し(3校・230人)、青少年への音楽教育にも寄与した。「いこま吹奏楽の日」では、小学校3校、中学校8校、高校2校、市民吹奏楽団3チームが一堂に会し、成果発表の場とするとともに、観覧希望者も多数あり、イベントが減少する中で市民に音楽に親しむ機会を提供することができた。</p> <p><b>【スポーツ振興課】</b> スポーツに興味・関心をもってもらいスポーツの裾野を広げるため、総合型地域スポーツクラブや各施設の指定管理者と連携し、新規事業「いこまスポーツの日」を開催した。ファミリーでの参加者も多く、働き盛り世代のシビックプライドの醸成に寄与したと考える。</p>		<p><b>【生涯学習課】</b> 新型コロナウイルスの影響が引き続き見込まれる中、文化芸術活動の維持が図られるよう発表の場の確保や市民が音楽に親しむ機会を継続的に提供する必要がある。また、幅広い世代を対象とした事業実施に向け、実施内容や実施方法の検討、工夫が必要である。</p> <p><b>【スポーツ振興課】</b> 生駒市スポーツ推進計画の重要施策である、「総合型地域スポーツクラブの推進」及び「障がい者スポーツ活動の推進」は、一定の成果が得られているものの発展段階にあるため、今後も継続的な取組が必要である。</p>
■R3年度の取組予定(A)		
<p><b>【生涯学習課】</b> 「市民みんなで創る音楽祭」の企画提案を募り、市制50周年記念事業として実施し、音楽文化の担い手の裾野を広げるとともに、幅広い世代の市民に音楽に親しむ機会を提供する。また、生駒音楽芸術協会や市民吹奏楽団及び各校の吹奏楽部とのさらなる連携のもと、「リベラルコンサート」や市民吹奏楽団事業である「いこすいフェスタ」、「0歳から楽しめるファミリーコンサート」、「いこま吹奏楽の日」を開催し、市民との協働で「音楽のまち生駒」のさらなる推進を目指す。なお、いずれも新型コロナウイルスの感染状況を見極めた開催方法とし、感染防止対策を講じたうえで座席配置等を工夫しながらできるだけ多くの多世代の市民に来場いただけるよう対応する。</p> <p><b>【スポーツ振興課】</b> 今夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることを踏まえ、アスリート講演会やコミュニティライブサイト、パブリックビューイング、聖火リレーコースを巡るウォーキングイベントなどを実施予定。スポーツに対する関心を高め、スポーツを通じた地域活性化に取り組むことで、シビックプライドの醸成を図る。</p>		

■総合戦略会議からの令和2年度の取組状況に対する評価・コメント						
参加者の評価(人)	A	B	C	D	E	コメント
	1		4	2		
<p>【評価基準】 A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった</p>						

■KPI(C)													
アウトプット	アウトカム												
<p>①-1 市民みんなで創る音楽祭の参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>5,250</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>1,053</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	5,250	R2実績値	1,053	達成状況	×	<p>①-A 生駒市に住んでいることに誇りを持っている働き盛り世代の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>57.3</td></tr> <tr><td>R3実績値</td><td>52.1</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	57.3	R3実績値	52.1	達成状況	×
R2目標値	5,250												
R2実績値	1,053												
達成状況	×												
R3目標値	57.3												
R3実績値	52.1												
達成状況	×												
<p>①-2 0歳から楽しめるファミリーコンサートの参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>1,070</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>0</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	1,070	R2実績値	0	達成状況	×	<p>①-B 生駒市に住んでいることに誇りを持っている若年世代の割合(%)</p> <table border="1"> <tr><td>R3目標値</td><td>63.7</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>63.3</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R3目標値	63.7	R2実績値	63.3	達成状況	×
R2目標値	1,070												
R2実績値	0												
達成状況	×												
R3目標値	63.7												
R2実績値	63.3												
達成状況	×												
<p>①-3 スポーツイベントの参加者数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>41,000</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>20,050</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	41,000	R2実績値	20,050	達成状況	×							
R2目標値	41,000												
R2実績値	20,050												
達成状況	×												
<p>①-4 総合型地域スポーツクラブの会員数(人)</p> <table border="1"> <tr><td>R2目標値</td><td>850</td></tr> <tr><td>R2実績値</td><td>766</td></tr> <tr><td>達成状況</td><td>×</td></tr> </table>	R2目標値	850	R2実績値	766	達成状況	×							
R2目標値	850												
R2実績値	766												
達成状況	×												

■評価結果
C:一定の成果が得られた

附属資料

## 1 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略〔令和2年(2020)年度ー令和6(2024)年度〕(以下「第2期総合戦略」という。)第1章の推進体制として掲げる生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議(以下「戦略会議」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(戦略会議の開催)

第2条 戦略会議は、総合戦略の進捗状況の検証を客観的に行う必要から、外部有識者等の意見を聴くために開催するものとする。

(参加者)

第3条 市長は、第2期総合戦略を策定するに当たり開催した生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議開催要綱(令和元年8月16日施行)による生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の参加者のうちから戦略会議への参加を求めるものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、前項に規定する者以外の者に戦略会議への参加を求めることができる。

3 前2項に定めるもののほか、市長は、戦略会議の座長として学識経験のある者の参加を求めるものとする。

4 市長は、原則として、同一の者に継続して戦略会議への参加を求めるものとする。

(運営)

第4条 座長は、戦略会議を進行するものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、関係者に戦略会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

3 市長は、必要があると認めるときは、戦略会議を部会に分けて開催することができる。

(開催期間)

第5条 戦略会議の開催期間は、第2期総合戦略の進捗状況の検証が終了する時までとする。

(庶務)

第6条 戦略会議の庶務は、総合戦略を総括する課において処理する。

(施行の細目)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年1月25日から施行する。

2 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 参加者名簿

(全体会)

選出区分	氏名	所属母体・役職等
アドバイザー	ヒサ タカヒロ 久 隆浩	近畿大学 総合社会学部 教授
産業界	オオハラ サトシ 大原 暁	生駒商工会議所 専務理事
教育機関	レンゲ カズミ 蓮花 一己	帝塚山大学 学長
地域金融機関	ヨシダ シンタロウ 吉田 慎太郎	(株)南都銀行 生駒支店 支店長
政府系金融機関	オオニシ トシノリ 大西 俊典	(株)日本政策金融公庫 奈良支店 支店長
労働団体	タナカ アツシ 田中 篤史	連合奈良 西和地域協議会 議長
メディア	テツウ アツシ 鐵 東 敦史	(株)エヌ・アイ・プランニング 代表取締役
その他市長が必要と認める者	イシカワ チアキ 石川 千明	いこま育児ネット 元代表

### 3 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価集約表

[評価基準] A:高い成果が得られた B:予定どりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価
1 子育てしやすいまち							
1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する							
1-1-1 出産に対する経済的支援	①	不育症治療費及び一般不妊治療費助成	子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不育症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。	福祉健康部	健康課	C	
		母子保健の充実	健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。	福祉健康部	健康課		
1-1-2 産前産後ケアの充実	①	マタニティコンシェルジュの配置	妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。	福祉健康部	健康課	C	
		産後サポートの充実	産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。	福祉健康部	健康課		
1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる							
1-2-1 就学前保育の機能強化	①	保育所の整備	増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のこども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組みます。	教育こども部	こども課	C	
		保育士の確保	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組みます。	教育こども部	こども課		
		保育コンシェルジュの活用	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組みます。	教育こども部	こども課		
		就学前保育・教育サービスの充実	働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に合った就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。	教育こども部	こども課		
1-2-2 学童保育の機能強化	①	学童保育の充実	増加する保育需要に併い増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組みます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。	教育こども部	こども課	B	
1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う							
1-3-1 教育環境の充実	①	ICTを活用した教育の推進	教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、ICT機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。	教育こども部	教育指導課	B	
		英語教育の推進	小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中9年間を見通したカリキュラムを作成したうえで外国語指導助手（ALT）の配置や、小学校1年生から市独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。	教育こども部	教育指導課		
		夢を与える講演会・学校創造推進事業	自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めたいため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方（文化人、スポーツ関係者、事業者等）を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。	教育こども部	教育指導課		
1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる							
1-4-1 子育て世帯を応援する情報提供の推進	①	子育て世帯向けの多様な情報発信	子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。	教育こども部 福祉健康部 地域活力創生部 市長公室	子育て支援総合センター 健康課 ICTイノベーション推進課 広報広聴課	A	
		子育て世帯同士の学び・交流支援	子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。	教育こども部	子育て支援総合センター こども課	C	
		地域・行政・周囲のひとによる子育ての見守り強化	子育て世帯の孤立化を防ぎ、子どもたちが安心して成長できるよう、乳幼児を持つ家庭への訪問による見守り、相談等を実施し、虐待等の未然防止に努めるとともに、家庭、保育機関、学校、地域等が連携して子どもの人権や安全を守る意識を育てます。	教育こども部 福祉健康部	子育て支援総合センター 健康課	C	
1-4-3 地域で子育てを見守る体制の強化	②	ファミリー・サポート事業の利用促進	ファミリー・サポート事業の会員登録を進め、地域における育児の相互援助活動を推進し、地域全体で子どもたちの成長を見守り、子育て世帯の孤立化防止につなげます。	教育こども部	子育て支援総合センター		

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価	
	1-5	子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる						
		1-5-1 災害・犯罪等 に対する安全 性の向上	①	指定避難所への防災備蓄	災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。	総務部	防災安全課	B
			②	自主防災会の活動支援・促進	自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協体制の強化を促します。学校区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。	総務部	防災安全課	
			③	自主防犯活動の支援・促進	犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。	総務部	防災安全課	
④	通学路等安全対策		子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を実施し、安全に安心して通学等ができる環境整備を進めます。また、市民の協力による「子ども110番の家」の設置を推進し、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。	教育こども部 総務部 建設部 福祉健康部	教育総務課 こども課 防災安全課 管理課 事業計画課 土木課 障がい福祉課			
2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち								
2-1 職場での多様な働き方を広げる								
	2-1-1 働き方をめぐる 環境の変化に 応じたワーク ライフ・バラン スの実現	①	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発	仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	市民部	男女共同参画プラザ	C	
		②	テレワーク等の推進	ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課		
		③	女性の活躍推進	男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることができるとともに、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。	市民部 市長公室	男女共同参画プラザ 人事課		
		④	就業意欲がある人の支援	市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組み、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。	地域活力創生部	商工観光課		
2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる								
	2-2-1 産業の活性化	①	企業立地の推進	市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある操業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課	C	
		②	既存企業への支援	これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。	地域活力創生部	商工観光課		
	2-2-2 起業支援	①	起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成	起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。また、早い段階から起業など多様な働き方に対する意識を醸成するため、様々なスキルを有する市民や団体、企業と協働し、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナー等を開催します。	地域活力創生部 生涯学習部	商工観光課 生涯学習課	C	
		②	起業家を育成支援する体制づくり及び情報発信	起業希望者や起業家でもない人を支援するため、ベルテラスいこまのイベントや起業支援スペースから芽生えた起業意欲のある方に対し、店舗経営のノウハウの継承・指導やチャレンジする機会を設けるなど包括的な起業家の育成支援を実施します。また、そうした支援を効果的に行うための情報発信や起業支援セミナーの開催などを行います。	地域活力創生部	商工観光課		
2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる								
	2-3-1 子育て分野 における就労 の促進	①	保育士の確保【再掲】	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	教育こども部	こども課	C	
		①	介護関係資格取得費の支援	市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	福祉健康部	介護保険課	C	
	2-3-3 食に関する地 域産業の創出	①	プロ農業者の確保と育成	農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	地域活力創生部	農業委員会事務局 農林課	B	
②		農作物の販売支援	農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小規模農業の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組み、プロ農業者だけでなく小規模農業者の販売促進につなげます。	地域活力創生部	農林課			

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本目標	基本的方向	施策	具体的な取組	施策内容	担当部	担当課	評価	
3 働き盛り世代が住みたいまち								
3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる								
3-1-1 まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大	①	いこまの魅力創造事業	市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティブロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブックの運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。また、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。	市長公室 地域活力創生部	広報広聴課 商工観光課	C		
		観光・交流の促進	観光関連事業者等と連携して、民間のノウハウや知識を活用しながら、観光客受け入れのために必要なサインの整備や観光客向け体験型コンテンツの企画を行うとともに、SNS等を活用して国内外に観光情報を発信して魅力のPR等に努めます。事業者等がこれらの活動を主体的に取り組むことができるよう支援することにより、市内を訪れる観光客数や交流人口の増加を目指します。	地域活力創生部	観光振興室			
	3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進	①	空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進	多様な住まい方・暮らし方への受容と理解を図りながら、空き家の流通を促進し、良好な中古住宅の活用を推進するため、空き家流通施策やリノベーション事例の発信を広く効果的に展開します。また、事業者と一体となって、近居・住み替えニーズの掘り起こしと魅力的な賃貸住宅の供給策を検討するなど、本市にふさわしい土地利用のあり方を考えます。	都市整備部		住宅政策室 都市計画課	B
			移住支援金の交付	県が中心となり国の認定を受けた地域再生計画に基づく施策として、人口の東京一極集中を是正し、地方へのUIターンを促すため、東京23区在住者又は23区への通勤者が本市に移住し、県内の対象法人に就業、又は起業した場合、移住支援金を交付します。	地域活力創生部		商工観光課	
			既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進	耐震改修やリフォーム、バリアフリー化に関する相談窓口等を設置するとともに、耐震化に対する支援を行うことにより、既存住宅の流通を促進します。	都市整備部		住宅政策室 建築課	
	3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる							
3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成	①	いこまの魅力創造事業	市民PRチーム「いこま宣伝部」やシティブロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らす喜びを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくれます。また、新しい暮らし方をする人や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思う人の増加を目指します。	市長公室 地域活力創生部	広報広聴課 商工観光課 市民活動推進センター	B		
		②	地域特性に応じたまちづくり（ミライ会議）	暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場（ミライ会議）をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指します。	都市整備部		都市計画課 住宅政策室	
		③	ICTや民間活力を活かしたまちづくり	人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてICTやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。	地域活力創生部		ICTイノベーション推進課	
3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出	①	イコマニアイベントの実施	市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニアイベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。	地域活力創生部	市民活動推進課	C		
3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成	①	文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出	小学校のブラスバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げるため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しめるよう、地域スポーツの中心的存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。	生涯学習部	生涯学習課 スポーツ振興課	C		